

官報

號外

明治二十五年十二月四日

日曜日 內閣官報局

○第四回衆議院議事速記録第三號

明治二十五年十二月三日(土曜日)午後一時十二分開議

議事日程 第三號 明治二十五年十二月三日

午後一時開議

- 第一 集會及政社法改正案(伊藤大八君外二名提出) 第一讀會
- 第二 新聞紙條例改正案(箕浦勝人君外二名提出) 第一讀會
- 第三 地租條例改正案(杉田定一君外二名提出) 第一讀會
- 第四 出版條例改正案(加賀美嘉兵衛君外二名提出) 第一讀會

○議長(星亨君) 是ヨリ開會ヲ致シマス

(水野書記官朗讀)

曩ニ貴院へ及提出候明治二十五年年度歳入歳出總豫算追加ノ儀ハ時期切迫ニ付二十六年年度歳入歳出總豫算ニ先立テ決議相成度此段及要求候也

明治二十五年十二月三日 內閣總理大臣臨時代理伯爵井上馨

衆議院議長星亨殿

鐵道公債會計法案、官設鐵道用品資金會計法案審查特別委員長ニ杉村寬正君、同理事ニ內藤利八君、辯護士法案審查特別委員長ニ鳩山和夫君、同理事ニ丸山名政君當選セラレタリ

(此質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參考ノタメ茲ニ掲載ス)

質問書

鳥獸獵免許稅ハ從來政府議會共ニ認メテ租稅トスル所ナリ然ルニ今政府ハ獨斷ヲ以テ之ヲ改正シ該稅ヲ改メテ租稅以外ノモノト爲シタルハ如何ナル理由ニ基クヤ

明治二十五年十一月三十日

提出者 清水 文二郎
贊成者 渡邊 芳造

○議長(星亨君) 是ヨリ會議ニ取掛リマス、本日議事日程第一集會及政社法改正案 朗讀ヲ省略致シマス

集會及政社法改正案(伊藤大八君外二名提出)

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參考ノタメ掲載ス)

政談集會及政社法

第一條 此法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱フルハ政治ニ關ル事項ヲ目的シテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ
政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會二十四時間以前ニ會場所在地ノ管

轉警察官署ニ届出ヘシ但警察官署所在ノ市町村若クハ警察官署ヨリ一里以內ノ地ニ在リテハ五時間以前ニ届出ルコトヲ得

政談集會ノ届出ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

一 集會ノ場所

二 集會ノ年月日時

三 發起人ノ氏名住所

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其領收證ヲ交付スヘシ

届書ニ記載シタル時刻ヨリ二時間ヲ過キテ開會セス若クハ三時間以上中斷スルトキハ届出ノ效ヲ失フモノトス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲メニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ第二項ノ届出ヲ要セス

第三條 屋外ニ於テ政談集會ヲ開キ又ハ政治ニ關ル意思ヲ表スルノ目的ヲ以テ公衆ヲ會同シ若クハ多衆運動セントスルトキハ發起人ヨリ二十四時間以前ニ會同スヘキ場所年月日時及其通過スヘキ線路ヲ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

第四條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以內ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 左ニ掲クル者ハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

一 日本臣民ニ非サル者

二 未成年者

三 公權剝奪及停止中ノ者

第六條 左ニ掲クル者ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得ス

一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人

二 警察官

三 官立公立私立學校ノ學生生徒

四 小學校ノ教員

五 未成年者

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲メニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ

前項ノ制限ニ依ルヲ要セス

第七條 政談集會ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ講談論議者ヲラシムルコトヲ得ス

第八條 警察官署ハ制服ヲ着シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得

發起人ハ臨監警察官ニ其求ムル所ノ席ヲ供シ且集會ニ關スル事項ニ付尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

第九條 此法律ニ掲クル集會及運動ニハ戎器又ハ兇器ヲ攜帶シテ會同スルコトヲ得ス

第十條 政談集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若クハ刑事裁

判中ノ者ヲ救護シ若クハ賞恤スルノ談論ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 會場ニ於テ故ヲ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ涉ル者アルトキハ警察

官ハ之ヲ制止シ其命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十二條 安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ警察官ハ其講談議論ヲ停止

スルコトヲ得

第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ政談集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

一 集會ノ成立此法律ニ背キタルトキ

二 警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其來ムル所ノ席ヲ供セス又ハ其尋問ニ答ヘ

サルトキ

三 會衆騷擾ニ涉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セサルトキ

四 第六條第九條ノ違犯者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其命ニ

從ハサルトキ

第十四條 第二條ノ届出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ

三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第三條ノ認可ヲ受ケスシテ集會若クハ運動ヲ爲シタルトキハ發

起人ヲ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第五條ヲ犯シタル者及第六條ニ背キ會同シタル者ハ貳圓以上貳

拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第七條ヲ犯シタル發起人ハ罰前項ニ同シ

第十八條 第九條ヲ犯シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以

上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以

上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命

セラレタル後仍退出セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 政社ニハ役員ヲ置クヘシ

政社ハ組成後三日以内ニ其役員ヨリ事務所及役員ノ氏名ヲ其事務所所在

地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ其届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其領收證ヲ交付スヘシ

役員ハ其政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキハ答フ

第二十二條 政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ但

會場ヲ豫定シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初期ノ開會二十四時間以前ニ

届出ルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス其届出ノ事項ニ變更アリタルト

キハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十三條 左ニ掲クル者ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス

一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人

二 警察官

三 官立公立私立學校ノ學生生徒

四 小學校ノ教員

五 未成年者

第二十三條 政社ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ加入セシムルコトヲ

第二十四條 政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其發

言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ制規ヲ設クルコトヲ得ス

第二十五條 政社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ內務大臣ハ之

ヲ禁止スルコトヲ得

第二十六條 第二十條ニ違フトキハ其役員ヲ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ

處ス

尋問ヲ受ケテ詐僞ノ答ヲ爲ストキハ罰前項ニ同シ

第二十七條 第二十二條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ三圓

以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第三條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ

第二十九條 禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社ノ實アル者ハ拾圓以上百圓以下

ノ罰金ニ處ス

第三十條 此法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒ

第三十一條 此法律ニ關スル公訴ノ時効ハ六箇月ヲ經過スルニ依テ成就

第三十二條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此法律ニ依ルノ限ニ非ス

第三十三條 此法律施行ノ日ヨリ明治二十三年七月第五十三號集會及政社

法ヲ廢ス

（伊藤大八君演壇ニ登ル）

○伊藤大八君（百二十九番） 現今ノ集會及政社法ハ專制政體ノ下ニアリマシ

テ、所謂藩閥保護ノ目的ヲ以テ生レ出タル所ノモノデゴザリマス、故

ニ、今日ノ輿論政治ト立ビ立ツコトノ出來ナイト云フコトハ明カナコトデゴ

ザイマス、故ニ之ガ改正ヲ求メマス、與論デゴザイマス、故ニ此改正

ノコトニ就キマシテ理由ト云フモノハ、茲ニ本員ガ喋々述ベマセズモ既

ニ諸君ガ御案内ノコト、信ジマス、故ニ、私ハ喋々ト其理由ハ述ベマセズ

ノデゴザリマス、此改正法案ヲ本員ガ第一議會ヨリ當議場ニ提出致シマシ

テ、幸ニ諸君ノ贊同ヲ得マシテ速ニ可決ニ相成リマシテ貴族院ニ送付致シマシ

タ所ガ、不幸ニシテ貴族院ニ於キマシテハ、未タ通過ノ好機運ヲ得ルノ榮

ヲ得マセヌ次第デゴザリマス、是ハ實ニ本員ハ遺憾トスル所デゴザイマス、

當ニ本員ガ遺憾トスルノミナラズ蓋シ滿場諸君ト雖モ、遺憾トスル所デ

ゴザイマセウト信ジマス、故ニ今日ニ於キマシテハ、此改正案ヲ速ニ可決致

シマシテ貴族院ニ送付致シマシテ、貴族院ニ兎ヤ角ト辭柄ヲ藉スコトノナカ

ランコトヲ、偏ニ本員ガ希望シテ已マナイ次第デゴザイマス、就キマシテ、此

唯今茲ニ提出致シマシタル所ノ案ノコトニ就キマシテハ、此當春第三議會ニ

於キマシテ滿場諸君ガ可決ナサレタル所ノ案ニ、少シモ相違致シテ居リマセ

ヌノデゴザイマス、獨リ僅ニ此第十八條ノ刑罰ノ所ニ少シ輕禁錮ノ刑ヲ加ヘ

タト云フコトガ相違致シテ居ルノミデゴザイマス、其他ハ第二議會ニ於テ可

決致シマシタ通りデゴザイマス、此段御了承アラントコトヲ偏ニ願ヒ

マス

（政府委員法制局長官文學博士末松謙澄君演壇ニ登ル）

○政府委員（末松謙澄君） 諸君、所謂三條例ナルモノガ此議場ニ出テマシタ

ルコトハ、初期以來引續イテノコトデゴザイマス、而シテ政府ニ於キマシ
テモ斯ノ如キ議案ノ年々歳々同シモノガ出ルト云フコトハ、決シテ好マナ
イ所デアアルノデアリマス、願クハ同一ノモノナラバ一期間ニ於テ其儘局ヲ附
ケ、尙ホ進ンデ他ノ必要ナル法律ヲ制定ニ至ルコトヲ希望スル譯デアリマス、

然ルニ此條例ノ如キニ對シテハ、政府ニ於テモ大ニ熟慮スル所ガナカラザル
ヲ得ナイノデアリマス、政府ハ、政府タル所ノ責任ヲ盡スニ於テ如何ナルコ
トガ必要デアアル、如何ナル條例ガ必要デアアル、如何ナルモノハ爲サナクテハ
ナラント云フコトヲ考ヘルノハ獨リ他ノ伊藤君ナドハ藩閥政府云々ト云フコ
トガゴザリマシタガ左様ナ譯デアリマス、獨リ政府ガ政府タル行政權
ノ必要ニ感スルノミデアリマス、即チ國民一般ニ對シテモ必要ナル治
安ヲ保タナケレバナラヌ、必要ナル秩序ヲ保ツト云フコトハ十分考ヘナケレ
バナラヌノデアリマス、ソレ故ニ今回此議員ノ出サレタル所ノ三條例ノ案ニ
對シテ、政府ハ如何ナル感覺ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ本員ガ辯スルノ榮ヲ

有シマス、此ニ於キマシテ本員ガ述べマスレバ、今日此提出セラレタル儘デ
ハ、此案ニ對シテハ政府ハ絕對的ニ反對ヲ致サナクテハナラナイト云フ譯デ
アリマス、如何トナレバ諸君ニ於テ御討議ニナリマシタ所デ政府ハ唯今申ス
通り政府ノ責任ヲ盡ス、即チ諸君ノ付托ニ背カン様ニスルニハ各條項ニ就イ
テ十分ナル思考ヲ要サナケレバナラヌ、又他ノ貴族院ナドノ意思モ多少考ヘ
ナケレバナラヌト云フ見込モアルノデアリマス、ソレ故ニ此三條例ニ對シテ

若モ諸君ニ於キマシテ他ノ方法ヲ考ヘ、直ニ此儘通過スルト云フ譯デアリマス、
他ニ之ニ就イテ政府ノ説明モ聽イテ、斯ノ如キ條項ハ吾々斯フ思フタガ成程
斯フ聽イテミレバ斯フ法ヲイハ、ト云フガ如ク、前案ヲ御變ヘニナル様ナ方
法ヲ御立ニナルコトヲスレバ、是ハ別段デアアルノデアアル、去リナガラ此儘直
チニ議場デ通過ヲ致シテ此儘日本帝國ニ向ツテ施行スル、コトヲ諸君ガ希望
ニナルト云フコトデアリマスレバ、政府ハ之ニ向ツテ反對ヲ致サルヲ得ナ
イ譯デアリマス、是レ丈ノコトヲ申シマス

○野出鎭三郎君(二百九十三番) 私ハ簡單ナコトデアリマスカラ、此處ニ於
テ一言申上ゲタイ、集會及政社法ト云フモノハ是迄再三出マシテ、既ニ前議
會ニ於キマシテモ、此法案ハ議定シタモノデアアル、唯今末松謙澄君ガ政府委
員トシテ反對ヲサレマシタケレドモ、前議會ニ於テモ末松謙澄君ガ衆議院議
員ノ資格トシテ、此委員長トナツテ此政談集會政社法ト云フモノハ、決議シテ

之ヲ今日得タモノデゴザリマス、左様ナ次第デゴザリマスカラ以上ハ此法案
ニ就イテハ格別審査ヲ要スルコトデナイ、當議會ハ之ヲ適當ナモノナリト云
フコトハ、全會ニ於テ認メテ居ルコトデゴザリマス、直ニ此事ハ決議アラ
ンコトヲ私ハ希望致スノデアリマス

○魚住逸治君(百六十二番) 私ハ、政府委員ノ末松君ニ御尋致シマスガ成程
唯今二百九十三番ノ申シマシタ如ク、當春ノ議會デ三條例ノ委員長ニ末松君
ガナツテ極メタコトモ吾々認メテ居ル、併ナガラ、ソレハ立消ニナツテ居ル、併
シ其當時ノ修正案即チ委員會デ成立シタト云フモノハ、其當時議論ヲ唱ヘタ末
松案ト云フモノトハ少シク違ツテ居ルト思ヒマス、然ルニ政府委員ハ此議案
ニ對シテ提出ノ儘デハ政府ハ絕對的ニ反對ダト唱ヘラレマシタガ、假ニ一歩
ヲ讓ツテ第三議會ノ當時ニ、末松案トシテ出サレタ其儘ノモノデ出サレタナ

ラバ、政府ハ贊成スルヤ否ヤト云フコトヲ確メタイト考ヘマス、是ハ是非ト
モ政府委員ノ答辯ヲ煩ハシマス

(政府委員末松謙澄君演壇ニ登ル)
○政府委員(末松謙澄君) 諸君ハ、私ヲ御困ラセル積リデ段々論セラル、ト
存ジマスルガ、一向困リマセヌ、前ノ末松案ハ私ガ出シタニ相違ナイ、議員ト
シテ併ナガラ、此案ハ今日政府デ商議ヲ致シタト云フ様ナモノニハ登ツ
テ居ナイノデアリマス、政府ハ今日私ガ委員トシテ申ス所ニハ、アノ案ハ眼
中ニナイノデアリマス、併ナガラ此本員ガ以前委員長トシテ報告シタコトハ
アルニ相違ナイ、併ナガラ案ヲ査定致シマスニ附キマシテハ、自ラ政府ハ政府
ノ中デ評議ヲ致シ、其評議ノ結果モアリマスノデアリマス又、本員ガ以前委
員長トシテ審査致シマシタ時ニハ、本員ノ意見ニ違フコトニ於テ委員ノ多
數デ極メタコトモアルノデアリマス、是等ノ事ニ附イテ一々彼是申ス理由ハ
ナイ、若シ本員ガ政府委員トシテ辯明スル所ト、議員トシテ辯明スル所トニ
於テ、其間ニ大ニ差ガアル、違フ事ヲ云フ如クアツテ私ノ面目ニ關スル程
ノ事ナレバ、其責任ハ十分負フノデアアル、ソレダケノ覺悟ハ十分致シテ居ル
ノデアアル、而シテ此案ノ提出ニ於テモ隨分前期ニ於テノ說ニシテ、後期ニ於
テ立派ナ黨派ノ出シタ案デモ或ハ違フコトモアルノデアアル、或ハ……

○魚住逸治君(百六十二番) 本員ノ問フ所ト少シク要旨ガ違ヒマス、本員ノ
尋ヌル所ハ、假ニ末松案ノ如キ——最初末松君ガ出サレタル所マデ讓ツタナラ
バ政府ハ贊成スルヤ否ヤヲ簡單ニ承ハレバ宜イノデアアル、今ノ御辯明等ノ如
キハ、甚ダ此提出シテ居リマス所ノ案ニ向ツテ反對ノ様ニ考ヘマスカラ、簡單
ニ前段御尋申シタ丈デ御答辯下サイ

○政府委員(末松謙澄君) 末松案ナルモノハ、政府委員ノ末松ハ知ラナイノ
デアリマス

○魚住逸治君(百六十二番) 分リマシタ

○箕浦勝人君(三番) 最早此案ニ附イテ議論スルノ必要ハナイ、願クハ速ニ
特別委員ニ付セラレタイ、其委員ハ九名トシテ議長ノ指名ヲ願ヒタイ

(贊成々々ト呼ブ者アリ)
○議長(星亨君) 決ヲ採リマセウカ

(異議ナシ異議ナシト呼ブ者アリ)
○議長(星亨君) 異議ガゴザリマセウカラ……
○山田泰造君(百六十二番) 異議ガアリマス、是ハ委員ニ付スルニ及バヌ既
ニ前段ニモ陳ヘラレタ通、屢、此事ハ決議ヲシテ終ツタモノデ、唯貴族院デ
遅クナツタ丈デアアル、何ノ必要アツテ委員會ニ付スルカ、諸君ハ何ノタメ
ニ委員ヲ選ムカ、別ニ委員ヲ選ンダ所デ何タビモ何タビモ繰返ス必要ハナイ、
餘計ノ時間ヲ費ヤスニ止マル、私ハ直チニ此儘確定ニ致シタイコトヲ望ム
ノデアリマス

○井上角五郎君(七十八番) 唯今山田君ノ御說モゴザリマスガ、政談集會及
政社法案、集會及政社法改正案ト云フ二ツノ法案ガ、今日ノ議事日程ニ確カ
ニ出テ居ルモノト認メナケレバナラヌ既ニ二ツノ御法案ガ出テ居リマスシ、
且ツ伊藤大八君ガ説明スル所ハ是ノ事ヲ落シタトカ、間違ツタトカ、御說
明ガアツタ以上ハ一應特別委員ニ付スルノガ、相當ト考ヘマスカラ前論者ヲ

衆議院議事速記第三號

明治二十五年十二月三日

集會及政社法改正案

第一讀會

一九

贊成致シマス

○議長(星亨君) 議論ガナケレバ決ヲ採リマス、決ヲ採ルニ當リ井上君ガ他ノ案モ議事日程ニ出テ居ルト云フ様ナコトデアラガ、ソレハ出テ居ラヌ、併ナカラ前ノ例ニ據レバ、若シ此本日ノ議事日程ノ第一ヲ委員ニ付スルト云フナラバ、元田君外何名ヨリ出テ居ルノモ、矢張此委員會ニ往ク譯ニハナルノデアリマスケレドモ、元田君其外ノ今印刷等ヲシテ議事日程ニ載ル時ガ來テ居ラヌト云フコトヲ諸君ニ申シテ置キマス、即チ出テ居リマスルニハ相違ナイガ、委員會ニ付スルト云フコトニナレバ同時ニ元田君ノモ矢張付スルコトニナリマス、故ニ是ヨリ委員ニ付スルヤ否ヤト云フコトノ決ヲ採リマス、ソコ此委員ニ付スルト云フコトハ三番ノ動議デアリマスガ、三番ニ於テハ委員ハ九名ニシテ何ウスルノデス

○議長(星亨君) 議長ノ指名ニ……

○議長(星亨君) 選ビヤウハ……議長ノ指名、然ラバ今日ノ議事日程ノ第一ヲ委員ニ付スルヤ否ヤト云フノ決ヲ採リマスカラ、委員ニ付スルト云フ説ヲ可トスル方ハ起立ナスツテ下サイ

起立者 多數

○議長(星亨君) 多數ト認メマス、依ッテ委員ニ付スルコトニ致シマス、左スレバ元田君其外ノモ矢張委員ニ自然ニ付スルコトニナリマス、是ヨリ議事日程ノ第二ニ移リマス、新聞紙條例改正案

第二 新聞紙條例改正案(箕浦勝人君外二名提出) 第一讀會

○議長(星亨君) 朗讀ハ省略シマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參考ノタメ掲載ス)

新聞紙法

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行以前ニ發行地ノ管轄廳東京府ハ警視廳ニ經由シテ內務省ニ届出ヘシ

第二條 新聞紙發行ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 題號

二 記載ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所及印刷所

五 發行人編輯人印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但シ紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後題號又ハ記載ノ種類ヲ變更セントスルトキハ變更以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期發行所印刷所發行編輯人印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第四條 發行人ニ變更アリタルトキハ其届出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其届出ノ效ヲ失フモノトス

第六條 左ニ掲クル者ハ發行人編輯人印刷人ト爲ルコトヲ得ス

一 日本臣民ニ非サル者

二 未成年者

三 公權剝奪及停止中ノ者

第七條 第一條第三條ノ届出ヲナサシテ發行スル者ハ正當ノ届出ヲナスマテ管轄廳長官東京府ハ警視廳總監ニ於テ其發行ヲ差止ムヘシ

第八條 新聞紙ハ毎號ニ發行人編輯人印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第九條 新聞紙ハ其發行毎ニ內務省ニ二部管轄廳東京府ハ警視廳及管轄地方裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求メヲ受タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辯駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ

正誤辯駁書ノ掲載ヲ求ムル者ヨリ其領收證ヲ受ケンコトヲ望ミタルトキハ之ヲ與フヘシ

正誤辯駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ル、トキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要セス

第十一條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辯駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求メナシト雖モ其官報又ハ新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但シ廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十二條 罪犯ノ曲屈スルノ論說ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

刑律ニ觸レタル者若クハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲メニスル文書ヲ記載スルコトヲ得ス

第十三條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十四條 外交軍事ニ關シ公ニセサル官ノ文書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十五條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ內務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ之ヲ差押フルコトヲ得

第十六條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルモノアルトキハ內務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ之ヲ差押フルコトヲ得

第十七條 陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付豫審ヲ求メ又ハ公訴ヲ起ストキハ

檢事ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得
裁判所ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付誹毀侮辱ノ訴ヲ受タル場合ニ於テ
其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外被告ハ事實ノ證明ヲナスコトヲ得若シ之
ヲ證明シタルトキハ其罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受タルトキモ亦同シ

第二十條 第一條第三條ノ届出ヲナス又ハ第六條第八條第一項第九條ヲ
犯シタルトキハ發行人ヲ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第三條ノ届出ヲナスモ實ヲ以テセサルトキハ發行人罰前項ニ同
シ

第二十二條 第十條第十一條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上五拾圓以下ノ
罰金ニ處ス

第二十三條 第十二條第十三條第十四條ニ違フトキハ編輯人ヲ十一日以上
六月以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十五條第十六條ニ違ヒ發賣頒布ヲナストキハ發行人又ハ發賣頒布ヲナ
シタル者罰前項ニ同シ

第二十五條 第十七條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第十九條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第二十一條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十二條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第二十三條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十四條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 第二十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二十六條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 第二十七條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 第二十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 第二十九條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第三十條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十一條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第三十二條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又
ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

ハ、政府委員ノ出席ヲ求メテ互ニ十分研究ヲ遂ゲ、練リニ練リ上ゲテ完全ナ
ル雙方ノ満足スル結果ヲ得テ、既ニ貴族院ニ迴シタ以上ハ、最早此度ハ三千
日ハ愚カ三日モ費サズシテ、貴族院ニ於テ可決スルコトガ出來ル程ノ品物ニ
シテ向フニ渡シタイト考ヘマス、此提出者タル本員ニ於テハ、此法案ハ實ニ完
全ナルモノト信ジテ居ル、併ナガラ尙ホ貴族院ニ前期ノ如キ調査ノタメニ、
多クノ日子ヲ費サシムルト云フセウナ無益ナコトヲ省クタメニ、鄭重ニ鄭重
ヲ加ヘルタメニ特別委員ニ付セマシテ、其特別委員ニ於テハ、今申ス通り政
府委員ノ出席ヲ請フテ十分討論講究ヲ經ルコトニ致シタイト考ヘマス、最早
其物柄ノ如キハ、今更喋々ノ説明ヲ要シマセヌ、又説明ヲ要スルタメニハ餘
リ明白ナルコトデアアル、故ニ其事ハ申シマセヌ、願クバ速ニ特別委員ニ付セ
ラレンコトヲ希望致シマス

○立入奇一君(二百十番) 特別委員ニ付スル說ヲ贊成致シマス

○石井定彦君(百七十五番) 特別委員ニ付スルニスルハ勿論其答デアリマス
ガ、其選舉法ニ於テ議セズンバナリマスマイ、矢張第一ノ特別委員ノ選定法
ノ如クニ議長ノ指名ニシテ九名ノ指名ヲバ、シタイ

○野出鎬三郎君(二百九十二番) 委員ノ選舉ノ事ニ就イテハ已ニ集會及政社
法案モ委員ニ付託スルコトニナリマシタカラ、是等ノ事ハ方向上ニ就キテモ
自ラ關係ヲ生ズルカラ即チ集會及政社法改正ノ委員ニ付託スルコトニ致シタ
イ

○山田東次君(七番) 野出君ニ贊成シマス

○議長(星亨君) 何ウデス今ノ百七十五番ノハ矢張議長ノ指名デ宜シイト云
フノデスカ、野出君ノトハ違ヒマス

○石井定彦君(百七十五番) 違ヒマス、野出君ノハ先ノ委員ニ付託スルト云
フノデ、私ノハ別ニ議長ノ選定ヲ煩シマス

○加藤喜右衛門君(十三番) 委員ハ一ツニスルト云フ意見ニ贊成

○廣住久道君(二百七番) 野出君ヲ贊成致シマス

○議長(星亨君) 最ウ別ニ御議論ガ無ケレバ決ヲ採リマス、先ツ第一ニ委員
ニ付スルヤ否ヤト云フノ決ヲ採ル、ソレハ御議論ガ無ケレバ決ハ採ランデモ
宜ササウナコト、思ヒマス

〔異議ナシ異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(星亨君) 即チ委員ニ付スルコトハ斷然極ツタト致シマス、サウス
ト第二ノ委員ハ先ノ議事日程第一ノ委員ト同委員ニスルカ、將タ別ノ委員ニ
スルカト云フコトガ議論ニナツテ居リマス、ソレデ三番ハ百七十五番デスカ
――三番ハ何トモ云ハンガ百七十五番ト同ジデスカ、ソレデナケレバ百七十
五番ハ贊成ガナイヤウニ見ユル

○箕浦勝人君(三番) 此委員ノ事ニ就イテハ一言モ述ベナイ

○議長(星亨君) ナイ――サウスルト百七十五番ニハ贊成ガナイト私ハ見テ
居ル、サウスレバ贊成ガナケレバ即チ唯一ツニナツテ此二百九十三番……

○石井定彦君(百七十五番) 贊成ガアリマス、一ツ御調ベ下サイ、アリマシ
タニ相違ナイ

○議長(星亨君) アリマシタカ

○加藤六藏君(百九十二番) 私ガ贊成シテ居リマス

衆議院議事速記第三號 明治二十五年十二月三日 新聞紙條例改正案 第一讀會

○議長(星亨君) 賛成が出マシタ——先カラアツタノデスナ、サウスルト第一二七十五番ノガ先キニ出テ居リマシタカラ、サウシテ當リ前ハ先キニ出テ居ル……當リ前ノ委員ト云フモノハ後トデスルノガ當リ前ト考ヘルカラ即チ野出君ノハ變則ト見ルカラ野出君ノヨリ先キニ決テ採リマスカラ左様御承知ヲ……即チ野出君ノニ賛成ノ方ハ起立ナスッテ下サイ

起立者 多數

○議長(星亨君) 多數ト認メマス、依ッテ野出君ノ說即チ議事日程ノ第一ト同シ委員ニ付スルト云フコトニ致シマス——是ヨリ本日ノ議事日程ノ第三ニ移リマス地租條例改正案

第三 地租條例改正案 (杉田定一君外二名提出) 第一讀會
議長(星亨君) 是ハ、短カイサウデスカラ朗讀致サセマス
(町田書記官朗讀)

地租條例改正案

明治十七年三月第七號布告地租條例第一條左之通り改正ス
此改正ハ明治二十六年度地租徵收第一期ヨリ施行ス
第一條 地租ヲ分テ二トシ田畑ハ地價百分ノ二箇郡村宅地市街宅地鑛泉地鹽田池沼山林牧場原野雜種地ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

(政府委員大藏次官法學博士田尻稻次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(田尻稻次郎君) 唯今朗讀ニナリマシタ地租條例改正案ノ事ニ就キマシテハ、是迄政府ハ屢々意見ヲ申述ベテ置キマシテ今年ニ於テモ格別ノニ就イテハ變々意見ヲ持ッテ居マセヌデゴザイマス、且下餘程國家多端ノ時ニ當リマシテ費用モ多イコトデゴザイマス、且地價修正ノ題ハ已ニ上ッテ居マシテアリマスカラシテ連モ其ノ上ニ歲入ヲ減スルト云フコトハ、ドウシテモ出來ナイ譯デアリマスカラ、是ハドウモ此案ト云フモノニハ同意スルトコトガ出來ナイ譯デアリマスカラ、一應政府ノ意思ヲ述ベテ置キマス

(杉田定一君演壇ニ登ル)

○杉田定一君(三十五番) 私ハ本案ノ提出者ノ一人デゴザイマスレバ、本案ヲ提出ヲ致シマシタル所ノ理由ヲ簡單ニ述ベマス、按地租ノ輕減シ、農民ノ負擔ヲ輕クシ、稅率權衡ヲ得セシメルト云コトニ附キマシテハ、第一期議會以來此邊ノ事ニ就イテハ喋々議論ガアリマシテ殆ド餘蘊ノナイ次第デゴザイマス、私ハ唯今之ニ就イテハ、贅辭ヲ用ヒマセヌデゴザイマス、按元來私ハ此地租輕減ノ事ニ就キマシテハ即チ五厘處デハナイ、遂ニハ百分ノ一ニ迄モ減シタイト云フ所ノ精神ヲ以テ居ル所ノ者デゴザイマス、然ルニ第三期議會以來此三厘減ヲ主張シマシタ所以ト申シマスモノハ、即チ夫ノ地價修正ト併行セシメルト云フ所ノ精神カラ起ッテ即チ此三厘減ヲ主張ヲ致ス次第デゴザイマス、到底夫ノ三厘減ト地價修正ト五厘相衝突シ相容レヌ、遂ニ兩雄並立タスト云フ様ナルコトニ相成リマシテハ即チ民力ノ休養ヲ實行スルコトガ出來ナイ所カラ即チ此併行ヲスルメニ三厘減ヲ主張ヲ致シマス次第デゴザイマス、按第一期以來此地租輕減ノ事ニ就キマシテハ、本院ニ於キマシテ大多數ヲ以テ議決ニ相成ッタ次第デゴザイマスレバ、本日ニ於キマシテハ此地租輕減ノ問題ハ大多數ヲ以テ可決ニ相成ルト云フコトハ、信シテ

疑ハヌ次第デゴザイマス、又政府ニ此已ニ地價修正ノ方ニ於キマシテハ、即チ議院ノ意思ノアル所ト國民ノ輿論ノアル所ヲ察シテ即チ已ニ同意ヲ表セラレタ次第デゴザイマス、然レバ此地租輕減ノ事タルヤ、實ニ十有餘年以來唱ヘル所テ民間ノ大輿論デアリ、又第一期以來大多數ヲ以テ議決ニナッタ所ノ即チ國民ノ輿論議會ノ意思アレバ、無論政府モ之ニハ國民ノ輿論ヲ重シスルナラバ、必スハ同意ヲシナケレバナラヌ次第デアルト存ジマス、依ッテ當局者ニ於キマシテハ、即チ本議院ハ申スニ及バ貴族院ニ向ッテモ此地租輕減ニハ同意ヲスルト云フコトヲ即チ内閣大臣カ出テ演說アラントヲ希望ヲ致シマス、我々ハ年々歲々此地租輕減ノ問題ヲ持出シテ、即チ議院ハ地租輕減ノ問題ノタメニ蔽ハレテ他ニ爲スベキ所ノ事業モ爲シ能ハズ、即チ外ノ事業モ撙取ラヌト云フ如キハ甚ダ慨嘆ヲ致ス次第デゴザイマス、若モ不幸ニシテ本年モ之カ兩院ヲ通過セズ政府ガ同意ヲセザル場合ニ至ッタナラバ、又我々ハ、來年ナリ再來年ナリ即チ此地租輕減ノ目的ヲ達スルマデハ、幾十遍幾百遍迄モ此議會ニ提出致サウト考ヘテ居リマス、果シテ然ラバ年々歲々此地租輕減ノ問題ノタメニ他ノ事業ヲ爲ス能ハズ、即チ民力休養モ出來ズ國家進運ノ事業モ撙取ラヌトモ、出來ナイト云フコトニ相成リマスデゴザイマス、當局者ニ於テモ、此民力ヲ休養シ、國家進運ノ事業ヲ撙取ラシメナケレバナラヌト云フコトニ、反對スルト云フコトハアリマシヨマイト思ヒマス、當局者ハ立憲代議政體ノ作用ヲ重シズルナラバ、即チ此國民ノ最モ希望スル所ノ即チ此地租輕減ニハ、斷然同意アツテ然ルベキモノト考ヘマス、若シ之ニ反對スルナラバ即チ民力ノ休養、國家ノ進運ノ發達即チ立憲ノ作用ノ妨害ヲ致スト斷言ヲ致シテモ憚カラヌト存ジマス、按ソレカラ此地租輕減ノ事ト云フモノハ、極ク簡單ナル唯簡單ニ條例ヲ變ヘレバ宜シイ次第デゴザイマスレバ、本日此事ニ就キマシテハ別段委員ニ託セズ、直ニ之ヲ本日議決ヲ致シテ貴族院ヘ送ル様ニ特別委員ヲ別段設ケズ直ニ議決シテ貴族院ヘ送ル様ニ致シタイト考ヘマス、彼ノ貴族院ハ第一期、第二期、第三期ニ於キマシテモ、折角當院ニ於テ議決ヲ致シマシタモノヲ或ハ時日ガナイトカ何ト云フ様ナルコトヨリシテ、遂ニ握リ殺シ、流レ問題ト相成ッタ次第デゴザイマス、故ニ今日ハ此事ヲ議決シマスニ委員ナドニ付託シテツレガタメニ、大ニ時日ヲ遷延シ彼ノ貴族院ヲシテ、又時日ノナイガタメニ、之ガ流レ問題トナッタト云フ様ナル口實ヲ與ヘシメザランコトヲ、偏ニ希望ヲ致シマス次第デゴザイマス、聊カ簡單ノ理由ヲ述ベマス

○平林九兵衛君(十八番) 質問ヲ致シマス、地租輕減ノ事ハ我々共モ賛成致シマス譯デゴザイマスガ、此財源ハ何處カラ御出シニナリマスカ伺ヒタイ、財源ガナケレバ是ハ出來マセヌ、既ニ地價修正モ政府カラ議案ガ出テ居リマスガ、此裕餘ハドウ云フ所カラ御出シニナリマスカ伺ヒタイ

(無用々々ノ聲起ル)

○杉田定一君(三十五番) 左様デゴザイマス、私ハ地租輕減ト地價修正ハ併行致シテ十分財源ガアルト信ジマス、其邊ノ所ハ私共ガ別段ニ申シマセヌデモ、貴君方モ其邊ノ御考ハ十分アリマセウト考ヘマスカラ、喋々ツレニ就イテ答辯ヲスル程ノコトハアルマイト思ヒマス
○山口千代作君(四十九番) 私ハ政府委員ニ説明ヲ請フノデアリマス

○議長(星亨君) 未タ外ニ質問ガアリマスカ提出者ニ(無シトト呼ブ者アリ)

○山口千代作君(四十九番) 私ハ大變ニ長イコトデモナイノデアリマスカラ、是デ説明ヲ求メマス、實ハ大藏大臣ノ渡邊君ニ説明ヲ請ヒタイノデゴザリマスガ、今日ハ御出ガナイ、併ナガラ渡邊君ガナクテモ政府委員トシテ出ル以上ハ、其位ノ辯明ハ出來ルダラウト思ヒマス、今政府委員ニ求メマスガ、政府ハ第一期第二期第三期議會ニ於テドウ云フ方針ヲ執ツタカト云フコトヲ、一ツ説明ヲ請ハナケレバナリマセヌ、ツレカラ地價修正ノ問題ガアルカラ、ツレデ此輕減ガ出來ナイト今説明サレタノデアリマスガ、ツレハ地價修正ハ新稅ヲ起シテモ之ヲ遺ルノニ、之ヲ爲スコトハ國費多端ダカラ出來ナイト、斯ウ云フハ何ノ標準ニ據ルドウ云フ方針ガ此變更ヲ來シタノデアルカ、來シタ所以ヲ明カニ説明ヲ請ハナケレバナラヌ、政府ハ彼モ一時モ一時、地價修正ハ躍起組トカ云フ者ガ起ツテ新事業ハ地價修正ヲ爲サヌ中ハ決シテシナイト云フ嚇シ掛ケニ因ツテ腰拔ヲ遣ツテ、サウシテ斯ウ云フコトニ贊成シタト云フナラバ、我々モ躍起組ヲ作ツテ以テ、(笑聲起ル)遺ラナケレバナラヌ、ツレ等ノ事ハ、マサカサウ云フ様ナ政府ハ薄弱ナ腰拔デハアルナイト思ヒマス、併シ腰拔ナラバ腰拔丈ノ用心ヲシナケレバナラヌカラ、ツレ丈ノ説明ヲ請ハナケレバナリマセヌ

○政府委員(田尻稻次郎君) 唯今ノハ御質問ノ様デアリマスガ、是カラ答ヘマス

(演壇ニ出給ヘト呼ブ者アリ)

○政府委員大藏次官法學博士田尻稻次郎君演壇ニ登ル

○政府委員(田尻稻次郎君) 別ニ深イコトモアリマセヌガ、單ニ財源ガ足ラナイノデス、其財源ガ足ラナイト云フコトハ、今年御覽ニ入レマシタ豫算案デ以テ十分デアリマスカラ、其上ニハ御覽明ヲ致シマセヌ

○長谷川泰君(四十三番) 政府委員ニ質問ヲ致シタイ、政府委員ニ質問スルノハ外デハアリマセヌガ、一體本員ノ質問致シマスル大體ノ精神ハ、政府ト云フ者ハ人民ニ向ツテ嘘ヲ言フベキ者デアルカト云フコトデアリマス、(笑聲起ル)若モ政府ナル者ガ勝手次第ニ猫ノ眼ガ變ル様ニ、嘘八百ヲ吐タト云フナラバ、何ヲカ言ハシ、併ナガラ政府タルベキ者ハ減多ニ嘘ヲ言フ者デナイモノダラウト本員ハ信ジマスルカラ、質問スルノデアリマス、一體政府ハ何シカ戸迷デモシタカ、氣デモ違フテ居ルカ、政府ハドウシテ居ルカ、明治六年地租改正條例ヲ發行シテ、厚イ陛下ノ上諭ガアル、此上諭ヲ當時ノ政府内閣大臣等ハ奉シマシテ、地租改正條例ニ如何ナルコトヲ申シマシタカ、此地租改正條例第六條ニハ未ダ物品等ノ諸稅目起ラザル云々向後茶煙草材木其他ノ物品稅追々發行相成歲入相増シ其收入ノ額ニ百萬圓以上ニ至リ候節ハ地租改正相成候土地ニ限リ其地租ニ右新稅ノ増額ヲ割合ヒ地租ハ終ニ二分ノ一ニ相成候迄漸次減少可致事ト、法律ヲ以テ約束ラ人民ニ致シタ、而シテ明治十年ニ至リ如何ナルコトヲ政府ハ人民ニ申シタカ、明治十年ノ一月四日ニ太政官布告第一號ヲ以テ此ノ如キコトヲ政府ハ爲シマシタ、即チ詔ヲ奉ジテ地租百分ノ三デアルノ地價百分ノ二分五厘トスル、其詔ニハ親シク稼

積ノ艱難ヲ察シ深ク休養ノ道ヲ念フ、此厚キ詔ヲ内閣大臣ハ奉體シテ地租百分ノ三ヲ二分五厘ト致シタデハナイカ、當初明治六年ノ詔ヲ奉體シテ明治十

年ニ至ツテ愈々其詔ノ厚イ所ヲ再ビ奉體シテ五厘減ヲシテ居ル、所ガ明治六年カラ十七年ニ至ル物品稅ヲ調ベテ見レバ、ザツト三千萬圓以上ニ増シテ居ル、例ヘバ煙草稅賣藥ノ稅醬油ノ稅菓子ノ稅酒ノ稅丈デモ、三千萬以上増シテ居ル、三千萬以上ノ物品稅ガ増シテ居ル、然ルニ酒煙々々トシテ此ノ厚イ詔ヲ奉體スベキ義務ガアルニモ拘ラズ、此地租減額ヲ致シマセヌ、即チ百分ノ一ニシヤウト云フノデアルカラ、モウ五厘減ズルノハ當然デアアル、催促ヲ被ラズトモ政府カラ出スベキ義務ガアル、我々ハ之ニ迫ル權利ガアル、何ヲ以テ政府ハ此ノ如ク嘘八百ヲ言ツテ天下ノ人民ヲ欺クノデアリマセウ、稅源ガナイナゾトハ驚キ入ツタ話デアアル、八時間勞動組ノ人足ヲ減ラセバ澤山金ガアル、何ヲ以テ政府ハ人民ニ向ツテ嘘ヲ言フカ、其嘘ヲ言フ理由ヲ承リタイ(笑聲起ル)

(政府委員大藏次官法學博士田尻稻次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(田尻稻次郎君) 唯今ノハドウモ答フスルモ可笑ナ話ニナリマシタガ、嘘ヲ吐クト云フノモ、別段嘘ヲ吐イテモ居ナイ様ニ思フノデアリマシタガ、既ニ御承知通り地租ハ段々減少シテ居ルデス、ツレハ何年ニ幾ラ幾ラト云フコトハ能ク御承知ノコトデアリマスカラ、強イテ申上ゲマセヌガ、サウシテ又國家ノ必要ナル事ニ就イテハ、隨分間稅モ増シテ居リマスシ、ツレニ連レテ今度ハ地租モ追々増シテ居リマスガ、略々ドウモ、矢張其平均ヲ保ツテ居ルコト、思ヒマス、今年出シマシタノデモ大分減シマスガ、其レ此レニ依ツテ矢張地租ハ減ズルト云フ方針ヲ政府ハ執ツテ居ル譯デアリマスカラ、此段御答ヲシテ置キマス

○長谷川泰君(七十四番) 唯今政府委員ノ御答ハ本員ノ問ニ對シテ更ニ要領ヲ得ヌト思ヒマス、ツレナコトヲ御尋致シタノデアリ、政府ハ詔ヲ再ビ奉ジテ而シテ少シモ履行シナイ、嘘ヲ吐クノハドウ云フ譯カツレヲ御尋スルノデアル、又序ナガラ政府委員ニ御問致シマスガ、前内閣ナラバ伊ザ知ラズ、今度ノ伊藤内閣ニ向ツテハ、我々ハ何故嘘ヲ言フカト責メナケレバナラヌ、義務ガアル、今ノ伊藤總理大臣當時ノ樞密院議長ハ明治二十三年國會、憲法發布ノ時ニ府縣會議長ヲ集メテ如何ナル演說ヲ總理大臣ガ致シマシタ、吾

吾ハ先輩岩倉、木戸、大久保ノ遺志ヲ奉ジテヤルト詔ヲ約束ラシタ、其岩倉、木戸、大久保等ノ先輩ハ、即チ明治五年ニ五厘減ヲ現ニ實行シタ、先生デ……實行スルト府縣會議長ヲ集メテ地租ヲ五厘減スルト約束ラシタ……減ズルトハ、言ハナイガ、岩倉、大久保、木戸ノ遺志ヲ奉シテヤルト云フ以上ハ、ヤルノガ當然デアアル、是ガ前内閣ナラ我々ハ何モ云ハヌガ、今ノ伊藤總理大臣今ノ伊藤内閣ニシテ斯ノ如ク酒煙々々トシテ前約束ヲ履マズ、九デ嘘ヲ吐クノハ何ウ云フ譯デアルカ、其理由ヲ御答アラムコトヲ望ム

(政府委員大藏次官法學博士田尻稻次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(田尻稻次郎君) 唯今申上ゲマス通り嘘ハツカヌノデス、其通リヤツテ居ルノデス、ツレ丈御答ヲ……

○議長(星亨君) 百九十七番ハ通告ヲシマシタラウ

○工藤行幹君(百九十七番) サウデス

○工藤行幹君演壇ニ登ル

ガ、十分ニ此事ニ就イテ辯論ヲシタイト思フテ居リマシタケレドモ、今日ハ敢テ反對モ一向見エナイヤウデゴザリマス、餘リ長シク言フ必要モナイト思ヒマス、極ク簡單ニ、私ハ自分ノ趣意アル所ヲ申シテ置キマス、其初メニ當リマシテ唯今政府委員ノ一人ガ此地租條例ノ改正案ハ政府ノ同意ガ出來ナイト斯ウ言ヒマシタ、成程政府ノ同意ガ出來ナイト云ヘバサマシク仰々シク聞ヘ、是デヤ私ハ折角議シテモ役ニ立たヌト云フヤウナ感覺ヲ起ス人ハアルマイダラウト思ヒマス、近頃政府ノ言フ所ハ、一向當テニモ何ニモナラヌ、極ク薄弱デ今日ヤツタコトヲ翌日違フト云フコトデアルカラサッパリ取ルニ足ラヌコト、思ヒマス、今其證據ヲ舉ケルト昨年ト思ヒマス、唯今ノ大藏大臣即チ渡邊君ハ此議場ニ向ッテ地價修正ハ同意ヲシナイ、地租輕減ハ同意ガ出來ナイト云フコトヲ明言シテアルノデアル、然レ今年ハ忽ニツレヲ同意シテ來ルヤウナ如キ次第デアルカラ、又或ハ此民法商法ノコトニ附イテ或ハ政府大臣ハ是ハ延期シテハナラヌト云フコトヲ、決シテ政府ノ同意ハ出來ナイ何ト云フテモ矢張延期ニナルヤウナ次第デアルカラシテ、況ヤ唯今申シタ位ノ政府委員ト云フモノハ大臣デモナイ極ク薄弱ナ唯人ノ意向ヲ聽イテ、斯ウ云ヘト教ヘラレテ來タンドアラウカラ、是等ハ一向價值ノナイ執ルニ足ラナイト思ヒマス、私ハ此事ヲ一應申シテ置キマス、サテ此地租輕減地價修正ト云フコトハ、近來ノ大問題デゴザリマシテ互ニ一長一短、又一方ニ得ガアリ一方ニ損ガアルト云フコトデ、是迄ハ互ニ相攻擊致シマシタガ第三議會ニ至ッテ、我々同意者ノ中デ互ニ相讓ル所ガアツテ雙方平衡ト云フ所ニ方向ヲ取リマシテゴザリマス、故ニ彼ノ政府ガ提出致シマシタ監獄費國庫支辦法案ト云フモノハ、是ハ或ハ或ル縣ニ於キマシテハ監獄費ノ澤山掛ッテ居ル所モアリ、又寡ク掛ッテ居ル縣ナ所モアリマセウケレドモ、凡ツ各縣皆之ガ行渡ッテ、矢張國稅ノ方ニ於テハ變ラヌケレドモ、地方稅ノ方ニ至ッテハ矢張民力休養ノ一端ニナルコトデアルケレドモ、我々飽マデ此地租ノ輕減地價ノ修正ヲ遣ラウト云フ所ヨリ、雙方歩ミ合ヒガ就キマシタメニ、此政府提出ノ監獄費國庫支辦法案ト云フモノヲ廢棄シタコトデ、即チ諸君等ノ御了知ニナッテ居ルコトデゴザリマセウ、然レ今政府ハ自分ノ案ヲ行レナイ所ヲ持チ來ッテ、昨年マデハ同意シナイ今度一方ノ地價ノ修正ヲ探ッテ地租ノ輕減ヲ潰サントスルハ、我々議員ノ、或ハ世ニ謂フ民黨ト云フ一般ノ輿論ヲ代表シテ居ル者ヲ、破壞セントスルガ如キ方法ヲ執ッテ居ルモノト思ヒマス、若シ今日ニ至ッテ此地價ノ修正ノミ行ハレテ、地租ノ輕減ガ行ハレヌケレバ、又此地價ノ修正ト云フモノハ、ドレ丈ノ部分ニ至ルカ知レマセヌケレドモ、或ル縣ニ於テハ一向輕減ニナラヌ、或ル縣ニ於テハ澤山輕減ニナラウト思フ、又或ハ多少輕減ニナッテモ此輕減ノタメニ入費ガ掛リマスカラ、一向損得相齟ハヌ、甚シク言フナラバ得ル所失フ所ニ相償ハナイト云フ結果ヲ看ルデゴザリマセウ

然ルトキニハ今日ノ我々ノ方針デハ、ドウシテモ此二ツノモノハ併行シテ往カナケレバナラヌト云フコトハ、明々白々ノコトデアリマス、而シテ先刻政府委員ハ地租ハ追々減シテアルト云フコトヲ言ハレマシタケレドモ、成程國稅ノ中デハ追々ニツレハ幾ラ減ジテアル、幾ラ減ジテアルケレドモ之ガタメニ農民ガ一向肩ヲ愁メタト云フコトハ毫モナイコトデアアル、ナゼ肩ヲ愁メ

ナイカト云ヘバ、段々此地方自治ノ政體ガ行ハレテ是マデ人民デシナイモノ皆官途デ遣ッテ居タモノガ、悉ク地方自治ノ方ニ向ケラレテ來ル、故ニ其費用ガ増加ス、此事敢テ惡イト云フコトデハナイガ、ソレガタメニ其費用ハドコカラ出ルカト云ヘバ、皆此負擔ニ掛ルモノハ地租ニ依ッテ掛ッテ居ル、現ニ我々ノ取調ベル所ニ就イテ見ルト云フト、明治二十年當リノ統計表ニ依ッテ遣ッテ見ルト云フト、此地方稅地租割ト云フモノハ九百四十九萬二千二百五十二圓ト云フモノガ掛ッテ居ル、又町村費ノ方デ地租ニ掛ッテ居ルモノハ、幾ラ掛ッテ居ルカト云ヘバ、是ハ七百五十四萬六千四百七十一圓ト云フモノガ掛ッテ居ル、此ノ如ク掛ルノハ何ガタメデアアルカト云ヘバ、段々中央政府ノ政ハ縣廳ニ移リ、或ハ縣廳デ扱ッテ居ルモノガ郡區役所ニ移リ、郡區役所ノ事務ハ町村戶長ニ移ッテ居ルカラ自ラ、其費用増加シ、其費用ハ悉ク、悉クト云ヘバ餘リ言葉ガ過ギルカ知レナイガ十中ノ七八ハ皆地租ヲ目安ニシテアルノデアリマス、故ニ明治十年當リニ僅カ五厘ヲ減ジテ見タ所ガ實際農民ノ負擔ハ決シテ輕クナイ、國稅ト云ヒ地方稅ト云ヒ町村費ト云ヒ、矢張地租ニ割ッテ取ラレルモノガ多イカラ、人民ノ休戚上ヨリ之ヲ云フトキニハ聊カ輕クナツタト云フコトハナイノデアリマスノミナラズ、我々ハ是ヨリ進ンデ、既ニ案モ提出シテアリマス此郡制ナリ府縣制ナリ之ヲ實行シタイト云フ覺悟デアアル、若シ我々ノ希望ノ如ク諸君ノ贊成ヲ得テ郡制ヲ實施スルコトニナレバ其結果トシテ、郡書記ノ給料ナリ又ハ郡長ノ給料ノ如キ悉ク郡費トカ町村費デ持タナケレバナラヌ結果ニナリマセウ、然ラバ一方ニ負擔スルモノハ多クナリ、權利ヲ與ヘレバ隨ッテ費用ガ掛ル、此費用ヲ掛ケテ一方ノ國稅ヲ減ジナイデ何ヲ以テ農民ハ堪エテ行キマセウ、又地價ノ修正モ、民力休養ノ一端デハアリマスカレドモ若シ私ガ言フ通り此郡區ノ改正デモ行ハレテ行ク時ニナレバ、敢テ地價ノ修正ニナツタ所バカリ之ヲ行フト云フ譯デハナイ、即チ全國一般ニ之ヲ行ハナクテハナラヌ、然ル時ニハツレガタメニ増ス費用ハ今此處デ地租ヲ輕減シテ置カヌト、地價ノ修正ニナツタ所デハ餘裕ガ附イテ居ルカラ郡制ノ改革ノタメニ費用ガ増加シテモ餘リ憂ハナイカ知ラヌガ、一方ニ於テハ何モ減スル所ハナクテ郡制ノ改革ナドニ就イテハ大變ノ費用ガ増加シテ或ハ郡制ノ施行ニモ差支ヲ生ズルト云フ憂ガアリマセウト思ヒマス、又我々ノ元來ノ希望スル所ヲ云ヘバ、全體今日立憲政體ノ下ニ於テハ人ノ智識ガ上ラナケレバナラヌ、智識ガ富ムニハ僅カ中等以上ノ人ノ少數ノ者ノ智識ガ上ヨリ、一般人民ガ廣ク智識ガ上レバ宜シイ、又財產モ少數ノ人ガ多クノ金ヲ持ツヨリ一般ノ人民ガ富裕ニナル方ガ國家ノタメニ利益デアアル、然レ今農民ノ體裁ヲ見レバ如何デゴザイマス、抑、全國中農民位生計ノ低イモノハアリマス、是ハ畢竟封建時代ノ餘弊ヲ承ケテ農民ハ國ヲ治メル義務モナイ國ヲ護ルコトモ要ラナイ、唯汝等ハ稅サヘ出セハ宜シイト云フ時代デアッタナラバ宜シイガ、今日ハ如何デゴザイマスカ、農民ト雖モ即チ國家ノ財政ニ參與スル權利ガアル、一方ニハ徵兵ヲ以テ血稅ヲ出ス義務ヲ與ヘテ居ル、然レ農民ハ稅ヲ出シサヘスレバ宜シイ、口ニ糊シテ妻子餓ヘテ死ナナケレバ宜シイト云フコトハ出來マスマイ、而シテ此實況ヲ見レバ今此智識ノ一段ニ至ッテハ、是ハ最モ明カナコトデアアル、小學ノ就學生徒ハ如何デアアルカ、農民位就學生徒ノ少ナイモノハナイ此就學生

徒ノ少ナクハ何ガタメアルカト云フト、畢竟財政ノ困難スルタメニ少ナ
イノデアル、何人カ今日ノ世ニナッテ、我子弟ヲ教育スルコトヲ好マヌ者ハナ
イ、皆好ムケレドモ財政ノ困難スルタメニ止ムヲ得ズ、子弟ヲ學校ニヤルコト
ガ出來ナイト云フ位デアル、故ニ一般ノ普通教育ヲ行フモ此事情ガ出來ナイト
云フヲ見レバ、茲ニ一方ニ地價ノ修正ヲヤリ、一方ニ地租輕減ヲシテ農民ノ
休養ヲ圖ラナケレバ、國家ノ幸福安寧ヲ保ツコトハ出來ヌト我ハ深ク信ジ
テ疑ハナイノデアリマス、尙ホ此事ニ就イテハ或ハ先刻或ル議員カラモ此財
源ハ如何スルカト云フ御尋ガアリマシタガ、是ハ立派ニ出來ルト思ヒマス、
唯是迄ノ政略ハ總テ國家ノ費用ハ増シテ、其増シタ費用ヲ内地ノ人民ニ取ツテ
サウシテ中央集權ノ制ヲ以テ世間ニ目立ツコトヲシヤウト思フカラ堪エヌ
ノデアル、我ハ帝國議會ニ臨ンデ、此政事ヲ執ル以上ハ是非トモ中央集
權ノ弊ヲ矯メテ、所謂地方自治ヘ任セテヤルト、止ムヲ得ザル部分ニ限ツテ、
中央政府デヤルト云フコトニスレバ、今現ニ政府ノ出シテ居ル所ノ豫算ニ對
シテ、經常部ノ一方デモ五百萬以上ノ金ヲ減スルハ最モヤサシイと思フ、抑
五百萬圓ヲ減シタナラバ、國家ノ發達ニ害ガアルカト云フニ決シテサウ云フ
モノデナイ、國家ノ發達ニ害ガアルハ國家ニ必要ノ事業ニ關シテモノヲ減
スレバ害ガアルケレドモ、尋常ナル役人ノ入費ヲ減シテモ決シテ差支ナイ、
又各官省ノ經費トカ旅費トカ減シテモ國家ノ發達ニ害ノアルモノデナイ、
各官省ノ馬車ヲ廢シテモ人民ニ害ノアルモノデナイ、是等ノモノヲ精細ニ
調査シテヤルナレバ、五百萬圓以上ノ金ガ殘ルト思フノミナラズ第一期議會
ニ於テ議シタモノガ殆ド四百萬圓ノ金ガアルカラ、此二ツノモノヲ併行スル
ハ何ノ難イコトハナイ、唯是ハ政府ノ斷行如何ニ在ル、而シテ政府ノ之ニ反
對スルト云フケレドモ是ハ先刻モ申ス通り此議院デ議シ、又衆議院デ決シタ
ナラバ政府ハ自ラ省ミル所ガアツテ必ズ此事情ガ行ハレヤウ、此事ガ行ハレタ
以上ハ國家ノ幸福此上ナイコトデアラウト思ヒマスカラ、諸君ハ御疑ナク此
案ニ贊成アラントコトヲ希望致シマス

○議長(星亨君) 二十八番

○井上角五郎君(七十八番) 私ハ一箇ノ動議ヲ提出シヤウト思ヒマス

○議長(星亨君) 二十八番ヨリ通告ガアリマス

○加藤平四郎君(二十八番) 私ハヨシマセウ

○議長(星亨君) 通告ガマダ一人アル——九十八番

○佐々木正藏君(九十八番) 本員モヨスコトニ致シマス

○井上角五郎君(七十八番) 本員ノ發言ハ極ク簡單デゴザイマスカラ此席カ
ラヤリマス杉田定一君ガ本日ノ議事日程ノ原案ニ就イテ御説明ノ末ニ、
ウカ此地租條例改正案ハ此處ニ於テ直チニ決シテ特別委員ヲ選バズ、直
ニ貴族院ニ送リタイト云フコトデゴザイマシタガ、本員ハ宛ニ角一應特別委
員ヘ御任せニナラズバイケマイト云フコトヲ申スノデアル、何ゼカト云フニ
地租條例改正案本日ノ議事日程ニナツテ居ルノハ、杉田君ノ提出デゴザイマ
スガ尙ホ別ニ波多野傳三郎君ノ提出ノ地租條例改正案モアルコトデ、ソレノ
ミナラズ波多野傳三郎君ノ外ノ人ノ提出ノ議案、即チ杉田定一君ノ議案ト較
ベテ見ルト、西淵爲藏君ノ如キハ兩方ニ贊成シテ居ル、三厘減デモ五厘減デモ
減シサヘスレバ宜イト云フヤウナ、ドチラデアアルカ御迷ヒノ御方ガアル、若シ

西淵爲藏君ノ如キ方ガアルトスレバ、旁、是ハ委員ニ於テ(西淵爲藏君一方ノ
ハ間違デアルト呼ブ)調ベタ方ガ宜シイト思フ、五厘ト三厘トハ大ナル金
高ノ違ヒデモアルカラ、特別委員ニ託セラレンコトヲ冀望シテ、茲ニ動議ヲ
提出致シマス

○石井定彦君(百七十五番) 本員モ七十八番ト同様ナ譯デアリアスルガ、併
シ其七十八番ハ波多野傳三郎君外四名ノ案モ、併テ此杉田君提出案ノ委員ニ
同ジク付託スルト云フ都合デゴザイマス

○井上角五郎君(七十八番) 左様デゴザイマス

○石井定彦君(百七十五番) ナラバ贊成致シマス

○議長(星亨君) 決ヲ採リマス、ソレデ諸君ニ御注意致シマスガ、此地租、
……今議題ニ上ツテ居ル地租條例改正案ハ、他ニ一ツ同様ノ案ガ出テ居ルガ、
本日ノ議事日程ガ委員ニ付スルト云フコトニナレバ、即チ無論他ノモ委員ニ
付シマスダカ、又委員ニ付サナイト云フコトニナレバ第二期議會ニ移ル譯デ
ゴザイマスカラ、二讀會ニ於テ他ノモノハ修正トシテ出スコトノ出來ルモノ
ト考ヘマスカラ、孰ニ於テモ宜シイノデゴザイマスカラ、ソレ丈ノコトヲ御
注意申シテ置キマス

○山口千代作君(四十九番) 私ハ政府委員ニ説明ヲ請ヒマシタガ、一向要領
ヲ得ナイデ、ソナ分ラヌモノニハ請ヒマセヌデ、杉田定一君ニ贊成ヲシマ
ス……

○議長(星亨君) モウ贊成ノ理由ハ聽キマセヌ、即チサウ云フ譯デゴザイマ
スカラ、是ヨリ委員ニ付スルヤ否ヤト云フ決ヲ採リマス

○山口千代作君(四十九番) 即チ委員ニ付スルニ及バナイト云フノデス

○議長(星亨君) 委員ニ付スルト云フ說ニ贊成ノ諸君ハ起立

起立者 少數

○議長(星亨君) 少數ト認メマス、依ッテ委員ニ付セナイト云フコトニナリ
マシタ

○野出鎬三郎君(二百九十三番) 直チニ二讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマ
ス

(贊成々々ノ聲起ル)

○長谷川泰君(四十三番) 直チニ二讀會ヲ開クト云フコトニ御極リニナリマ
スレバ、本員ハ……

○議長(星亨君) マダ極リマセヌ、是ヨリ決ヲ採リマス、直チニ二讀會ヲ開
クヤ否ヤト云フ決ヲ採リマス、二讀會ヲ開クト云フニ贊成ノ方ハ起立

起立者 多數

○議長(星亨君) 多數ト思ヒマス、依ッテ二讀會ヲ開クニ決シマス

○長谷川泰君(四十三番) 本員ハ本案ニ就イテ修正動議ヲ提出致シマス

○議長(星亨君) マダ……是カラ逐條審議ニ掛ルノデスケレドモ、次ニ直
チニ二讀會ヲ開クト云フコトニナレバ例ニ依ッテ道ルガ、ソレハ次デナケレ
バ出來ナイ譯デアリマス、動議デモ起レバ宛モアレ、マダ……

○加藤勝彌君(百二十一番) 私ハ議院規則第九十一條ノ但書ニ依ッテ直チニ
二讀會ヲ開クト云フコトニ致シタイ

(贊成々々ノ聲起ル)

○議長(星亨君) 御議論ガナケレバ決ヲ採リマス、直チニ二讀會ヲ開クヤ否ヤト云フコト、前ノハ詰リ「直チニ」ト云フノデハナク、アレハ言ヒ損ヒデス、今度ノハ直チニ此席ニ於テ二讀會ヲ開クト云フ動議ガ出テ居リマスカラ、其説ニ賛成ノ方ハ起立

起立者 多數

○議長(星亨君) 多數ト認メマス、依ッテ此席ニ於テ二讀會ヲ開クトハ極リマシタ、朗讀ハレマスガ、……朗讀ハ省イテ逐條審議ニ掛リマス

地租條例改正案(杉田定一君外二名提出) 第二讀會

○田艇吉君(二十二番) 唯今ハ此全文ニ就イテ一時ニ議セラル、ノデスカ

○議長(星亨君) 左様朗讀ハ省イテ全文ヲ會議ニ付スルコトニ致シマス

○田艇吉君(二十二番) ツレナラバ一ノ動議ヲ提出致シマスガ、此原案デ地價百分ノ二箇五分ノ一、又ハ百分ノ二箇二分ノ一ト云フコトガアリマスガ、私

モ此説ニハ賛成ノコトデ、素ヨリ趣意ハ同ジコトデアリマスケレドモ、少シク其書キ方ガ曖昧トシテカラニ、一目分リ惡イヤウナ感シヨ覺エマスカラ、之ヲ、地價千分ノ二十五、次ノヲ地價千分ノ二十二ヲ以テ一箇年ノ定率トスト

云フ、斯ウ云フコトニ改メタ方ガ兎角分リ易イヤウニ思ヒマスカラ、分リ易イガタメニ此ノ如ク修正シタイト云フ趣意デアリマス

○百萬梅治君(四十二番) 本員モ二十二番ニ賛成デゴザイマスガ、最初ガ千分ノ二十五ト云フト同ジコトニナルト思ヒマス、二十二ノ誤ト思ヒマスガ、如何デスカ

○田艇吉君(二十二番) 唯今四十二番カラノ御問ガアリマシタガ、是ハ四十二番ノ御問達デハ無イカト思フノデアリマス、……イヤ私ノガ如何ニモ誤ッテ居リマシタ即チ千分ノ二十五、……二十二デス、ツレカラ其他ノモノガ地價千分ノ二十五トナルノデゴザイマスカラ、是ハ言ヒ違ヒデアリマスカラ、訂正ヲ致シマス

○福田久松君(百八十六番) 私ハ質問ヲ致シタイ

○議長(星亨君) ツレハ發案者ニデスカ

○福田久松君(百八十六番) 左様デス、ツレハ別デハゴザイマセヌガ、是ハ條目ニ關係ハナイカラ、別ニ差障リモアリマスマイガ、兎ニ角法律トシテ出ルモノデゴザイマス、之ヲ能ク讀シテ見ルト初メノ第一「此改正ハ明治二十六年分ヨリ施行ス」トアル、此改正ハ「ト云フ」ハドウ云フノカ、此法律ト云フノカ、或ハ「左ノ通り改正シ明治二十六年分ヨリ施行ス」トアレバ宜シイガ、此改正ハ「ト云フ」ハドウ云フ御考デアルカ、併シナガラ法律文ヲ御出シニナルノデアアルカラ、文字モ餘程御擇ミニナツタノニ早々御批難ヲ申スノデハナイガ、一應承ッテ自分ノ説ヲ述ベタイ、此改正ハ「ト云フ」ハドウ云フ意味デアリマスガ

○工藤行幹君(百九十七番) 唯今ノ御尋ニ就イテ一應御答致シマス、提出者ハ餘リ字句ハ上手デナイ方デゴザイマスカラ、其主意ダケハ、……是ハ改正デアリマスカラ、是マデ百分ノ二箇半トアリマスモノデアリマスカラ、之ヲ百分ノ二箇五分ノ一ト改正スルノハ即チ二十六年度ヨリ改正スルノデアリマス、又序ダカラ今ノ修正案ニ對シ申シマスガ、千分ノ二十二ト書キマスノハ同ジデゴザイマスカラ、敢テ差支ハナイガ、是迄百分ノ二箇半ト云フコトハ、

是ハ百カラ位ガ取ッテアッテ百分ノ二五ト書キタイガ、「コンマ」ノ一ツヲ以テ目安ヲ立テ、居リマスカラ、「コンマ」ガナイト間違ヒマスカラ百分ノ二箇五分ノ一ト致シタノデアリマス

○福田久松君(百八十六番) 少シノコトデアリマスガ、「此改正ハ」云々ト二段ニ書イテアリマスガ簡様ニスルモノデハナイ、是ハ法律第何號トシマスカラ左ノ通り改正シ明治何年ヨリ施行スデ宜シイ、併ナガラ提出者ガ折角二項ニシタノデ之ヲ改メルノモ氣ノ毒デアリマスカラ、此儘ニシテ「改正」ト云フ字ヲ「法律」ト云フ字ニ變ヘルコトニシマス、餘リ見惡イ

○橋本久太郎君(百八十一番) 福田君ノ前ニ御述ニナツタ方ガ宜シイ、決シテ斯ウ云フコトニ遠慮ハ要ラナイ

○山田泰造君(百六十六番) 賛成

○議長(星亨君) 先程サウ云ツタ長谷川君ノ修正説ハ出マセヌカ

(長谷川泰君演壇ニ登ル)

○長谷川泰君(四十二番) 諸君本員ハ、此杉田定一君外二名ヨリ御提出ニナリマシタ地租條例改正案ニ對シマシテ修正ノ動議ヲ茲ニ提出ヲ致シマス、僅カノ違ヒデアリマスガ即チ「此改正案ハ明治二十六年分ヨリ施行ス」トアリマスノヲ、「此改正案ハ明治二十六年度地租徵收第一期ヨリ施行ス」ト斯ウ修正ヲ致シタイノデアリマス、次ニ第一條ヲ此ノ如ク修正ヲ致シタウゴザイマス、
「第一條地租ヲ分ツテ一トシ、田畑一、地價百分ノ二箇、郡村宅地、市街宅地、鑛泉地、鹽田、池沼、山林、牧場、原野雜種地ハ、地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トナス」ト、此ノ如ク修正ヲ致シタイノデアリマス、就キマシテ修正動議ヲ提出致シマシタ理由ヲ申述ベマス、一體地價百分ノ二ニスルト云フノハ最早十數年以來天下ノ輿論ニシテ、此第一期議會以來各員ガ本演壇ニ述ベラレマシテ、其理由ヲ詳悉ニ御述ベデアリマシタカラ、之ニ對シテ格別理由ヲ述ベマスコトハアリマセヌカラ申上ゲマセヌガ、唯私ガ茲ニ修正動議ヲ提出致シタイト云フ精神ハ、外デハナイノデアリマス、私ハ先刻政府委員ニ質問ヲ致シマシタガ政府ハナゼ嘘ヲ云フカ猫ノ眼ノ變ハル様ニ約束ヲ履行セヌカト云フコトヲ質問致シマシタ、所ガ政府委員ハ説明スル能力ガナイト見エマシテ飛ンデモナイ御答ヲナサレマシタ、私ハ政府ハ明治六年以來國民ニ義務ガアル、我々ハ政府ニ對シテ求ムルノ權利ガアルト云フノデアリマス、一體政府ハ地租ノ事柄ニ對シテ如何ナル事ヲ申シマシタカ、王政維新以來私ハ先刻大藏次官ニ御尋ヲ致シマシタ如ク、明治六年七月政府ハ地租改正條例ヲ發布致シマシタ、厚イ詔ヲ奉シテ政府ハ地租條例改正ヲ發布致シマシタ、其詔ハ滿場諸君ガ御記憶デアリマスカラ茲ニ朗讀スル必要ハアリマセヌガ、即チ其地租改正條例ヲ發布致スニ對シマシテ上諭ガ出マシタ、其上前ノ法ガ寬苛、輕重率ネ其平ヲ得ナイカラ、地租條例改正ヲ致ス「ト云フ厚イ詔ヲ奉シテ、當時ノ大臣等ハ地租改正條例ヲ發布致シタノデアリマス、其地租條例ノ第六條ニ諸君ガ御記憶ノ如ク如何ナル事ガ書イテアリマスガ、「地租ハ則チ地價百分ノ二ニモ可相定メ處未タ物品等ノ諸稅目與ラサルニヨリ先以テ地價百分ノ三ヲ稅額ニ相定メ候ヘドモ向後茶煙草材木其他ノ物品稅追々發行相成歲入相増シ其收入

ノ額二百萬圓以上ニ至リ候節ハ地租改正相成候土地ニ限リ其地租ニ右新稅ノ増額ヲ割合ヒ地租ハ終ニ百分一ニ相成候迄漸次減少可致事ト云フ法律ヲ出シテノデアリマス降テ明治十年ニ至リマシテ政府ハ明治六年地租改正條例發行ニナリマシテ精神ニ基キマシテ地租ヲ減却致シマシタノデアリマス、即チ「今般地租ノ儀別紙 詔書ノ通被仰出候ニ附イテハ明治十年ヨリ地價百分ノ貳分五厘ト被定候條此旨布告候事」ト云フコトデ即チ約束ヲ履行シテ百分ノ一ニスル百分ノ一ニスルト云フ、五厘減シタルデアアル、當時ノ詔ヲ奉體シテ當時ノ内閣大臣等ハ此地租五厘ヲ減スト云フコトヲ履行致シタルデアリマス、其詔ハ諸君モ御記憶ノアル通、「兆民猶ホ疾苦ノ中ニ在リテ未ダ富庶ノ澤ヲ被ラザルヲ慰ミ曩ニ舊稅法ヲ改正シテ地價百分ノ三ト爲シ偏重ナカラシメントス、今又親シク稼穡ノ艱難ヲ察シ深ク休養ノ道ヲ念フ、更ニ稅額ヲ減ジテ地價百分ノ二分五厘ト爲サン、有司宜ク云々」ト云フ厚イ詔ヲ奉體シテ、當時ノ内閣大臣等ハ則チ此五厘減ヲ實行シタルデアリマス、而シテ明治十年以來五厘減却ニナリマシテカラ、明治十七年マデノ有様ハ、諸君如何デゴザイマス明治六年地租改正條例ヲ發行致シマシテカラ、明治十七年迄ノ間、實ニ當初約束ヲ致シマシタル此物品稅ガ増シタルバ地租ヲ減ズルト云フ、即チ其物品稅ハ何程増シマシタルデゴザイマス、諸君御記憶ノ在リマス通、酒ノ稅烟草ノ稅醬油ノ稅賣藥ノ稅ナド、云フモノガ枚舉ニ違アラズ、若シ松方前ノ内閣總理大臣ヲシテ言ハシメタルバ、ボク舉ニ違アラズト云フデアリマセウ、實ニ枚舉ニ違アラズ、物品稅ハカリデモ先ヅ大凡三千萬圓増シタル、酒ノ稅ハカリデモ一千五百萬圓以上増シテ居ルデアリマス、然ルニ此ノ如ク稅源ガ非常ニ増シテ當初ノ約束ヲ履行スベキ程マデニ至ッテ居ルニモ拘ラズ、何ヲ以テ當時ノ内閣大臣ガ此約束ヲ謂ハレナク破ツタルデアリマセウ、我ハ更ニ之ニ對シテ解セヌデアリマス、若シ政府ガ政府ノ義務ヲ盡スト云フ精神ガアルナラバ、當初ノ詔ニ對シテ出シタル所ノ法律ニ對シテ、必ズ百分ノ一迄ハ出來ズトモ少クトモ百分ノ二迄ハ減却致サナケレバナラヌデアリマス、諸君第一期議會ニ於テ政府委員ト衆議院特別委員諸氏ガ相會シマシテ如何ナル議決ヲ致シタデアリマセウカ、當時ノ豫算會議ノ速記ヲ御覽ナサレタ御方ハ御記憶ノ管デ、之ニ御關係ノ御方ハ本議場ニ御列席デアリマスカラ、六百五十萬圓ヲ第一期ノ議會デ減シタルハ、地租ヲ輕減スルメニ減ズノデアルト云フコトハ、會議ニ政府委員ガ列ツレニ同意ヲ表シテ六百五十萬圓ヲ減シタルデアアル、然ルニマダ滿二年經タカ經タカ僅カノ間ニ、漸ク一箇年半カワコラシカ經チマセヌ間ニ、政府ハ如何ナルコトヲスルデアリマセウ、第二期議會地租ハ輕減シナイ、先年以來法律ヲ出シタ、詔ヲ奉體シタ、約束ヲ守ラヌデアリ、第一期議會ニ於テ六百五十萬圓ヲ地租ヲ輕減スルメニ減シタケレドモ、是モ嘘ヲ吐イテ宜シイ、途方途徹モナイ或ハ監獄費ヲ昇ギ出スト云フモノカ、種々難多ノコトヲ致シマス、先刻政府委員ハ何カ更ニ地租ヲ輕減スベキ財源ガナイト云フコトヲ申サレマシタケレドモ、財源ハ澤山アルハ時間勞働組ノ要ヲナイ連中ヲ減シタラ、金ノ三四百萬圓ヤ五百萬圓ハ出ル、是レ之ヲ願ミズ、恬トシテ願ミズシテ、嘘ヲ吐クノハ政府ノ義務デアルト云フカノ如キ顏附ヲシテ居リマスノハ、諸君何ント如何ナル譯デアリマセウ、如何ニ國民ヲ欺クト云フデモ、欺クニモ程ガアル、實ニ始終嘘ヲ言フ

テ猫ノ眼ハ十二時ニハ縱ニナリマスガ、政府ノ眼ハ始終縱ニナツタリ横ニナツタリシテ居ル、實ニ驚キ入ッタル政府デアアル、ソレ故ニ我ハ政府ハ宜シク當初國民ニ約束ヲ致シマシタル上議法律ノ精神ニ基キテ、宜シク地租ヲ輕減スベシ、我々人民ハ誓ッテ政府ニ追ッテ之ヲ履行セシムル權利ガアルト信ジテ居ル、又前内閣ナラバ伊ザ知ラズ、今ノ伊藤内閣、今ノ伊藤總理大臣ハ一體如何ナルコトヲ先年申シタルデアリマス、私ハ今ノ内閣總理大臣ハ必ズ地租輕減ヲスベキ義務ガアルト信ジテ居リマス、私ハ今ノ内閣總理大臣ハ必ズ地租輕減シタコトハ姑ク措キマシテ、今ノ總理大臣即チ當初ノ樞密院議長ハ、明治二十三年憲法發布式ノ御府縣會議議長ヲ招キ一場ノ演說ヲ致サレマシタガ、如何ナルコトヲ當時ノ樞密院議長、今ノ伊藤大臣ハ申サレマシタカ、我ハ先輩岩倉、大久保、木戸ノ遺志ヲ繼イデ政治ニ從事スルト明言ヲシタデアリマセヌカ、即チ此地租ヲ百分ノ一ニスルト云フ所ノ法律、明治十年二分五厘減ニ致シマシタル所ノ法律ヲ出シマシタルハ、即チ先輩岩倉、大久保、木戸デアリマス、然ルニ我ハ先輩ノ岩倉、大久保、木戸ノ遺志ヲ繼イデ必ズ之ヲ履行シテ政治ヲスルト明言シテ置キナガラ、此ニ至ッテ財源物品稅ガ三千萬圓以上十七年マデニ増加ヲ致シタルニ拘ラズ、今日恬トシテ願ミズ此約束ヲ反古ニ致シマシテ、國民ヲ欺クトハ何事デアリマセウ、實ニ驚キ入ッタルデアアル、ソレ故ニ我ハ内閣ニ望ミマス、政府ニ望ミマス所ハ、政府ハ必ズ國民ニ約束ヲ致シタル當初ノ精神ニ基キ、地租五厘減ヲシテ、我々國民ハ必ズ誓ッテ政府ニ之ヲ求メル所ノ權利ガアル、ソレ故ニ我ハ他ノ事柄ハ述べマセヌ、唯政府ハ嘘ヲ言ハズニ當初ノ約束ヲ履行シテ、地租ヲ輕減シテ、斯ウ云フ精神デ此改正案ヲ提出致シタルデアリマスカラ、滿場ノ諸君莫クハ御贊成アラントコトヲ希望致シマス

（小倉貞則君演壇ニ登ル）

○小倉貞則君（六十五番） 諸君、私ハ此四十三番ニ贊成デゴザイマス、面シテ其贊成スル所以ヲ聊カ簡單ニ述べヤウト存ジマス、此地租輕減ノ事ハ今日一朝一夕ニ始マツタコトデナク、既ニ數年以前ヨリ嚮キトシテ天下ノ輿論トナツテ居リマスルコトデゴザイマス、カ、敢テ本員ガ喋々ヲ要スルコトハナカラウト考ヘテ居リマシタガ、如何セン我政府ハ地價修正ヲ爲シテ此輕減ヲ爲サル所ノ御考ノ様デゴザイマス、一昨日デゴザイマシタカ大藏大臣ノ演說中ニモ地租輕減ト云フコトハ一言モ申シマセヌノミナラズ、今日政府委員ノ演說ニモ地租輕減スルト云フコトハ財源ガナイカラ出來ヌ、斯ウ申サレテゴザイマス、止ム得ズシテ本員モ此處ニ一言致ス場合ニ相來リマシテゴザイマス、抑、地租輕減トハ、諸君ノ御承知ノ如ク農地ノ負擔ヲ減少スルト云フコトニシテ、土地所有者ノ負擔ヲ減ジテ之ガ休養ヲ計ルコトデゴザイマシテ、直ニ民力休養ト云フコトヲ意味スルモノデハゴザイマセヌ、且ツ又農民中ニモ小作人モアレバ農業勞力者等モゴザイマシテ、其種類ハ甚ダ多フゴザイマス、豈ニ地租輕減ノ一舉ヲ以テ、是等數種ノ人民ヲ直接ニ其生計ヲ豐裕ナラシムルト云フコトハ出來ヌ話デアアル、併シ法律ノ命令スル所ニ由ッテ、租稅ヲ納メ其利害得失ノ責任任ズル者ハ、即チ其土地所有者デゴザイマスガ故ニ其負擔ヲ減ズルト云フ所ヨリシテ生ズル利益ハ、即チ明カニ土地所有者ノ受クベキハ、敢テ怪シムコトデハゴザイマセヌ、故ニ果シテ農地ノ負

擔加重シテカラニ土地所有者が困難デアル有様デコザリマスレバ、之ヲ輕減セバナラヌ、其輕減スルニ假令、小作人ヤ農業勞力者等ハ毫モ其利益ヲ受ルコトナイト申シタ所ガ、道理ニ於テ地租輕減スルノハ敢テ不可ナルコトハナカラウト固ク信ジマス、依ッテ私ハ、地租輕減ヲ飽迄之ヲセント思フコトデコザリマス、我國ハ古來ヨリ農ヲ以テ成立ッテ居ル所ノ國デコザリマシテ、農ヲ國家ノ大本トシテ居ル所デ、租稅ノ如キモ殆ド單一稅ト云フ有様デコザリマス、今日立憲政治トナリマシテモ、地租ハ尙ホ國庫收入ノ殆ド半ヲ占メテ居ル様ナコト第一ノ稅源ニシテカラニ萬國其比ヲ見ザルモノデコザリマス、假ニ茲ニ例ヲ舉ゲテ見マスレバ、彼ノ支那ノ如キ、丁度歲入ノ二割五分ニ當ッテ居リマス、又希臘ノ如キハ一割二分ツレカラ和蘭ガ一割ト云フ様ナ譯デ、伊太利ノ如キハ六分ト云フ様ナコト澳地利ガ即チ六分、露西亞ガ五分、カウ云フ様ナ有様デコザリマスガ、我日本ノ如キハ四割六分ニ當ッテ居リマス、尤モ我國ハ農ヲ以テ成立ッテ固ヨリ農ヲ以テ國ノ本トシテ居ル國デコザリマスカラ、一時此他ノ外國ト比較スルハ、チト無理デコザリマセウガ、ツレニ致シテモ日本ハ四割六分ト云フ様ナ隨分是ハ強イモノデコザリマス、日本ノ人口一人ニ附イテ二十三年ノ調ニ由ッテ見マスルト、歲入ガ二圓六十二錢一厘、地租ガ九十八錢五厘、二十年ノ調ニ依ッテ見マスルト、二圓二十五錢一厘、歲入ガ二圓二十五錢七厘、地租ガ一圓零七八ト云フ様ナ有様デコザリマス、我國農民ガ斯ク重稅ヲ負擔シテ居ル所以ノモノハ唯是レ封建制度ノ遺風デアッテ、實際ニ之ヲ負擔スルノ力ガアルト云フ譯デハ決シテコザリマセヌ、封建制度ノ遺風デアアルガ故ニ即チ此稅ガ重イノデアル、如何トナレバ現政府ガ徳川ヲ追討致シテカラニ百般改革ヲ爲スト雖モ、此租稅ノ如キハ新ニ新稅ヲ課スル、其稅源ヲ見出スコトガ出來ヌカラ致シテ止ムヲ得ズ封建制度ニ依ッテ稅ヲ取立タモノデコザリマスガ、然レドモ今日ハ是レ政體ガ改革セラレテ之ニ伴フテカラニ經濟社會ノ變動ヲ出シテ居ル農家ノ負擔スルヲ得シ所以ノ經濟制度ハ、漸ク變ジテ貨幣經濟ノ世ト爲ッテ居リマス、段々此分業ノ世トナリ且ツ其費用モ次第ニ増加致シテ收入ハ之ニ伴ハサラントスル有様デアアル、元トハ此舊幕ノ頃ハ農家ハ米納デコザリマスカラ米價ノ下落ナドハ敢テ痛痒ヲ感ジナカッタノデアリマスガ、何ゾ此時ニ當ッテ封建制度ノ遺風ニ戀々トシテ農民獨リ重稅ヲ負擔スベキ理由ハ決シテナカラウト考ヘマス、全體此租稅ハ政府ガ一切ノ公務ニ供スルタメニ政府ヨリ徵收スル所ノモノデコザリマスレバ、餘程一般ニ普通ナルヲ計ッテ公平ニシテ、平等ナラシメザルベカラザルコト、信ジマス、今此土地所有者ノ負擔ハ如何ナル有様デアアルコト云フニ、第一ニ先ヅ國稅、第二ニ地方稅、第三ニ市町村費デアアル、其他農民ガ勞力ヲシテカラニ、夜ハ疲勞ヲ直ストニ酒ヲ一杯飲ムト云フコトデ濁醪ヲ釀ス、即チ醇酒ノ稅ガ出ルト云フ様ナコトデ、又一々農民ガ脊ニ負フタリ、肩ニ擔ギタリスルコトモ、困難ダカラト云フノデ、荷車ヲ拵ヘレバ即チ荷車稅ガ出ルト云フ様ナコトデ、又米ヲ搗クニモ水利ノ便ノ所ニ水車ヲ設ケラズ、云ヘバ即チ其水車稅ガ出ルト云フ様ナ譯デ、斯ノ稅目ハ多クナルニモ拘ラズ、又近來地方自治制ト云フモノガ施行セラレテヨリ、大ニ此町村稅ト云フモノガ増加シテ居リマス、之ニ伴フテ社會上ノ負擔ト云フモノモ増加シテ參リマス、然ルニ一方ニ於テハ國稅ト云フモノハ尙ホ減スルコトガ出來ヌ、多額ヲ

要シテ居ル平均收入ノ丁度三割ヲ納メツ、アリマス、彼ノ西洋經濟家ノ言フニハ、租稅ハ收入ノ二割ヲ超過スベカラズ、然ラザルトキハ大ニ人民ノ經濟ヲ紊スト云フデコザリマスガ、余ハ敢テ西洋人ノ口吻ヲ真似ルデハコザリマセヌガ、實際農者ハ今日困弊ノ地位ニ在ッテ粒々辛苦ノ結果ハ、多ク他人ノ口腹ヲ充タシ自ラ飽クコトノ出來ヌ様ナ有様デアアル、先ヅ我地方農民ノ多クハ一箇月ニ二三度ヨリ……(此時簡單ニ願ヒマス呼ブ者アリ)實ニ農民ノ生活ノ度ヲ見ルニ農民ホド果敢ナイモノハコザリマセヌ

○議長(星亨君) 一寸注意致シマスガ、モウ此二讀會が開ケテアルカラ——此贊成ト云フ事柄ハ議論ノナイ話、サスレバ二讀會ノ逐條議ニ附イテ御議論ノアル方ガ宜カラウト考ヘマス、ドウカ……第三期ノ議會ニ於テ初メテ御出ニナリマシタ御方デアリマスカラ、私ハ猶豫致シテ居リマシタガ成ルベク……

○小倉良則君(六十五番) 成ルベク簡單ニ致シマスカラ……(此時藤野政高君第三期ニ御出ノ方デモ吾ト對デアリマセウト呼ビタリ)且ツ此土地ニ對スル負擔ハ重クシテ內國中他ノ資本ニ用ヒラレルモノト平均セヌトキニハ農業ノ進歩ヲ計ルト云フコトハ出來マセヌ、何トナレバ之ガ進歩ヲ計ルトコトヲ致シマシテモ、今日ノ有様ニテハ負擔ガ重クシテ利益ヲ地主ニ與ヘルコトガ出來マセヌ、又斯ク重稅ヲ負擔スル土地所有者ハ如何ナル收入ヲ土地ヨリ得ルカト申シマスレバ、誠ニ甚シイモノデハ一寸一ニ例ヲ舉ゲマスレバ、先ヅ新潟縣ノ二箇年ノ平均デアリマスガ、一段歩ノ收穫米ガ一石六斗一升九合此代金七圓零四錢六厘、種苗代十九錢二厘、肥料代一圓五十八錢四厘(簡單々々)……二圓三十七錢八厘、雜費三十錢此生產費ノ總計ガ四圓四十五錢三厘デアリマス、一段歩ノ平均地價ガ四圓四十五錢三厘ト一圓六十九錢ヲ引去レバ、殘額一段歩ニ附イテ九十錢三厘デアリマス、我邦、中農ト云フハ先ヅ一町二三段ヲ耕スガ、之ヲ中農ノ一町二三段ヲ積算致シマスレバ十一圓七十三錢九厘デアアル、此十一圓七十三錢九厘デ即チ住居ノ事カラ衣服ノ事カラ小兒ノ教育其他雜費社會上ノ負擔等ヲ賄ハナケレバナリマセン、(簡單ニ願ヒマス呼ブ者アリ)何ウシテ是ガ出來タモノデアアルカト怪ム位ノモノデ御座リマス、又國家ノ認メテ大地主トナス者モ一切ノ收入ガ六百圓ニ上ラズト云フガ、此內ヨリ矢張租稅其他ヲ引去ラナケレバナリマセヌ、工商業者ニ比シテ收入ノ甚シキヲ知ル次第デコザリマス、然ルニ如何ニシテ我農業者ハ生計ヲ立ルト云フニ、未ダ此自然經濟ヲ去ルコトガ遠クナイ故ニ、耕ヤシテハ食ヒ、織ッテハ衣ルト云フヤウナコトデ、大概皆購求セズシテ足ラシムルニ依ル故デコザリマス、然レドモ經濟社會ノ進歩ハ之ヲ襲撃シテ分業ガ益、行ハル、ニ至ッテハ、勢ヒ到底成立ツ譯ノモノデアリマセヌ、且ツ農民ホド此天災ニ感ズル者ハナイノデ、我日本ノ如キ山脈中央ニ連綿トシテ、川流ハ急ニシテ川底ノ高イ邦デハ洪水最モ多ク、(簡單々々)又洪水ノナイ地ハ早魃ノ憂ガ多イヤウナ處デコザリマス、(分リマシタ)ト呼ブ者アリ)我輩ハドウシテモ此地租ニ於テ五厘ヲ減ゼンナラント思フノデアリマス、農民ハ實ニ二千二百八十六萬餘人ニシテ全國人口ヲ占ムルコトハ我邦ノ先ヅ三分ノ一ヲ占メテ居ル、我邦ノ大本デアアル、依ッテ此種ノ人民ヲ富強ナラシメズ我邦ノ富

強ヲ得ルコト得難イと思フ、其本ガ枯ルレバ其國ガ枯ル、ト云フノハ理ノ略
イ所デアリマス、反對論者ハ或ハ地租ヲ輕減セバ土地ノ購買力ヲ増ストカ、或
ハ大地主ヲ生ズルト云フ説モゴザイマスガ、決シテサウ云フ憂ハナカラウ
ト思フガ細カニ之ヲ述ベテ居ル日ニハチト長ガウナリマス、殊ニ簡單説モ多
ク起ッテ居リマスカラ先ツツレ等ノ邊モ略シマシテ(スツカリ御略シニ成ッ
テト呼ブ者アリ)大地主ヲ生ゼシメシメニ本員ハ此地租五厘ヲ減シタイ
ト云フ意見デゴザイマスガ、ツレ等ノ處モマア省略シテ辯シマス、二十三
年ノ此調査ニ據ルト五厘以上ノ地租ヲ納ムル者、百十五万四千六十八人故ニ
早ク先ヅ此地租五厘ヲ減シテ二分ト成サント欲スルモノデアリマス、例令減
ズル所ガ五厘デアッテモ、一年ノ肥料ト爲スコトヲ得ルデアラウト思ヒマス
カラ之ヲ以テ彼等ヲ獎勵シ、又勉勵ナラシメテ其生産ヲ増加セシムルヲ得
イト思ヒマス、一兩年ニハ容易ニ其功ヲ見ルコトガ出來マセヌデモ數年ヲ經
過スル中ニハ、農民ノ貯蓄モ次第ニ増加スルベカリデハゴザイマセヌ、又農民
ハ此一度此希望ヲ達シタ以上ハ即チ野ニ扑舞シテ恰モ蘇生セシ如ク、天下、氣
合ヲ惹起スコトハ少小デナカラウト思ヒマス、(分リマシタ賛成々々ト呼ブ者
アリ)モウ少シデゴザイマスカラ少小(簡單々々跡ハ何枚デスト呼ブ者アリ)今
日我邦ノ爲スベキモノヤ起スベキモノハ、一ニシテ足ラヌコトデ、且ツ日本ハ
工商ヲ盛ニシナケレバナラヌ、然ルニ地租ヲ輕減ナスコトハ却テ我邦ノ將來ヲ
誤ル大ニ我日本ノ政務ヲ縮小スルコト云フ説モ承ツタコトモゴザイマスガ、然レ
ドモ我日本ノ爲スベキコトハ天下ヲ舉ゲテ爲サントシテモ尙ホ能ハザルモノ
ノ如クデアリマス、物ニハ緩急ノ別ト云フモノガアリマス、先ヅ秩序的ニ進
ンデ往カケレバナリマセヌ、農民ハ曩ニモ申ス通り人民ノ大多數ヲ占メテ
國家ノ財源モ亦主トシテ農民ニ依ルノデアル、農民ガ萎靡スレバ則チ國ノ殖
産ハ振興セズ、一國ノ財本ノ窮乏スルコト云フコトハ勢ノ免レザル所デアル、
今日我邦ノ必要ハ國家ノ富強ヲ計ルニアッテ、然ルニ此工商ガ振ハズシテ會社
銀行ノ如キ多クハ十分ノ成功モナク、又信用モナク二十年以來ノ有様ハ如何
デアリマセウカ、頼ム所ハ此農民バカリデアアル、次第ニ農民ヲ休養シテ先ヅ農
業ノ發達ヲ促シテ農民ノ力ニ依ッテ財本ヲ増加シマシテ、其購買力ヲ増進スル
ト共ニ其資本ノ工商業ニ注入スルヤウニシナケレバナラヌコト、思フ、例ヘ
バ工ト雖モ、工ハ即チ材料ヲ仰グ所ガナクテハナラヌ、又商ト雖モ需要者ガ
ナクテハナラヌ、故ニ工商ハ先ヅ内地ノ需要者ヲ待ッテ其發達ヲ計ッテ、而シ
テ後外國貿易市場ニ於テ外國ト輸贏ヲ爭フノ順道ニ出デ、往カケレバナラ
ヌト思ヒマス、然ラバ農ノ一盛一衰ト云フモノハ、商工ノ一盛一衰ニ關スル
ノデス、誠ニ思フニ數年前米價ノ騰貴セシ時ハ、實ニ工商ガ活潑デ氣焰ヲ吐
キシモノデハナカッタカ、是ニ於テ地租輕減ハ唯土地所有者ニ止マラヌ譯デ、
小作人ト勞力者ニ其利益ヲ間接ニ及スモノデゴザイマス、又工商業者ノ利
益トモナリ、又工商業ヲ振起セシムルモノト謂ハナケレバナラヌ、是レ即チ
地租輕減ハ民力休養タル所以デアアル且ツ又人民ガ渴望シテ止マザル所ノ國家
ノ輿論ヲ政府ハ容レテ人民ニ安堵ノ思ヲ爲サシメ、而シテ後ニ著々新事業ヲ
起スガ順序デモアリ、又得策デアラウト思ヒマス、然ルニ政府ハ輕減ヲ爲サ
ズシテ、ドウスル積リデアアルカ、甚ダ本員等ハ怪訝ニ堪エザルコトデアアル、
依ッテ我輩ハ飽マデ地租五厘減ヲ主張致シテ、此輕減説ガ貫徹セザル以上ハ、

夫ノ新事業ノ如キハ如何ナル道理ノ存スルト雖モ、一切之ヲ爲スヲ欲セザル
者デゴザイマス、依ッテ聊カ此賛成ノ理由ヲ陳述致シテ、(笑聲起ル)甚ダド
ウモ御八釜シウゴザイマシタ

○正木安左衛門君(百三十三番) 討論終結ノ動議ヲ提出致シマス

(賛成々々ノ聲起ル)

○福田久松君(百八十六番) 前ノ動議ヲ取消シテ、百六十一番ニ賛成シヤウ
ト思ヒマス

○議長(星亨君) 最早前ニ決ヲ採ラヌデモ宜シウゴザイマセウ、大抵議論ハ
盡キテ居ル、終局ニナツタヤウデゴザイマス

(宜シト呼ブ者多シ)

○野出鎭三郎君(二百九十三番) 決ヲ採ルコトニ就イテ……

○議長(星亨君) 私ノ言フコトガ違フタラバ仰シヤルガ宜シイ、ツレデ決ヲ
採リマスガ、長谷川君ノ動議ガ出テ居リマスガ、是ハ前ニ波多野君ノ出シテ居
ル方ニ皆賛成スルコトニナリマスガ、ドウデゴザイマス、サウデナイト二十
人以上ナケレバ成立タナイ

(無論賛成々々ノ聲起ル)

○議長(星亨君) ツレカラ田君ノ修正ガアリマスガ、是ハ二十人ナイヤウデ
ゴザイマシタガ

(田君ニ賛成々々ト呼ブ者アリ)

○議長(星亨君) 是ガアル、…… ツレカラ尙ホ百八十六番、貴方ノハ

○福田久松君(百八十六番) ツレハ取消シマシタ、私ガ前ニ申シタ方ガ宜イ、
百六十一番ガ出シテアリマスカラ之ニ賛成致シマス

○田庭吉君(二百一十一番) 私ハ百六十一番ニ賛成致シマス

○橋本久太郎君(百六十一番) 詰リ福田君ガ二様ニ言フタ前ノ說ナデス、
福田君ノ說ニシテ宜シウゴザイマス、私ハ成立ツタラ宜シウゴザイマス

○議長(星亨君) サウ譲リヤツテハ困リマスカラ、……議長ハ百六十一番ト
認メマス、……是ヨリ決ヲ採リマスガ、即チ長谷川君ノ動議ヨリ決ヲ採リマ
ス、其長谷川君ノ動議ノ中ニツゴザイマスカラ、是ハ別々ニ決ヲ採ッテ置ク
積リデゴザイマス、一ツハ改正ハ明治二十六年度地租徵收第一期ヨリ施行ス
是ヨリ決ヲ採ッテ參リマス、ツレハ各二箇何トカ云フノハ後トニナリマス、
即チ今朝讀致シマシタ如ク、長谷川君ノ說ニ賛成ノ御方ハ起立ナスッテ下サイ

起立者 少數

○議長(星亨君) 少數ト認メマス、依ッテ徵收期ノ條項ハ消滅致シマシタ、是
ヨリ第二即チ此長谷川君ノハ即チ二箇五分ノ一ヲ、……二箇二分ノ一ヲ二箇
半ト修正スル、是ハ即チ五厘減ノ意味ニナリマス、此五厘減ニ賛成ノ方ハ起立
ナスッテ下サイ

起立者 少數

○議長(星亨君) 少數ト認メマス、依ッテ是ハ消滅致シマシタ、ツレカラ尙
ホ修正ガゴザイマシタ、即チ福田君ノ修正デゴザイマシタガ、始ノ所明治二
十七年云々左ノ通り改正ス何年何月ヨリ施行スト云フコトニ、……明治二十
六年分ト云フコトニナリマスナ、……改正ヲヨシテ左ノ通り改正シ明治二十
六年分ヨリ施行ス、斯ウ云フ様ナ修正説ガ出テ居リマスカラ、此說ニ賛成ノ

御方ハ起立ナスツテ下サイ

起立者 多數

○議長(星亨君) 多數ト認メマス、依ッテ修正説ニ決シマス、是ヨリ田君ノ修正説即チ原案ノ一條ノ中百分ノ二箇五分ノ一ヲ百分ノ二十ニ改メ、百分ノ二箇二分ノ一ヲ百分ノ二十五ト改メ、趣意ハ變ラナイガ文字ガ變リマス、之ニ同意ノ方ハ起立ナスツテ下サイ

起立者 少數

○議長(星亨君) 少數ト認メマス、依ッテ原案ニ就イテ決ヲ採リマス、原案ニ御議論ガナケレバ多數ト認メテ宜シイカ

(異議ナシ異議ナシノ聲起ル)

○議長(星亨君) 即チ原案ノ通り決シマス

(拍手起ル)

○藤野政高君(百十七番) 三讀會ヲ省略スルノ説ヲ提出シマス

(賛成々々ノ聲起ル)

○内藤利八君(二百六十六番) 私モ矢張本日三讀會ヲ開イテ、即チ二次會ノ決定通り賛成致シマス

(賛成々々ノ聲起ル)

○議長(星亨君) 百十七番ノ御説ハ三讀會ヲ開カズニ直ニ……

○藤野政高君(百十七番) 三讀會ヲ省略スル

○議長(星亨君) ドウデセウ、元來三讀會ヲ開クト云フコトヲ極メテ、面シテソレデ確定議トスルト云フコトニスルノデスガ、三讀會ヲ省略シテ仕舞ッテ……

○藤野政高君(百十七番) 議院法ノ何條カニ在ルデス、三讀會ノ順序ヲ省略スルコトガ出來ル

○議長(星亨君) 一讀會ニ讀會ハ省略スルト云フコトガ在ル

○藤野政高君(百十七番) ソレデ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトガ出來ル、此意味デ三讀會ヲ省略スルト云フ動議ヲ提出スルノデアル、サウスルト從ッテ確定議トナル

○議長(星亨君) 今迄ノ例ハ極ッテ居ラヌデ、此處デ例ヲ極メトラドウダカ

○内藤利八君(二百六十六番) 是ハドチラニシテモ宜シイ、併シ矢張本日此議院規則九十七條デアリマス、之ニ依リマシテ本日三讀會ヲ開クト決シ、然ル後ニ二讀會ノ決議ニ賛成スルヤ否ヤト云フコトヲ議スルガ穩當デアリマス、(賛成ノ聲起ル) 願フニ此儀ハ餘リ聞キマセヌカラシテ、本員ハ直ニ三讀會ヲ開イテ二讀會ノ決定ヲ賛成スルト云フ説デアリマス

○議長(星亨君) 面倒ガナケレバ正式ニ其通りニシテドウデゴザイマス

(賛成々々ノ聲起ル)

○議長(星亨君) ソレナラ三讀會ヲ直ニ開クトハ議論ノナイコト、思ヒマスカラ、三讀會ヲ直ニ開クト云フコトニ極メマシタ

地租條例改正案(杉田定一君外二名提出) 第三讀會

○内藤利八君(二百六十六番) 先刻申シマシタ通、二讀會決議ノ通賛成ヲ致シマス(賛成々々ノ聲起ル)

○議長(星亨君) 然ラハ別ニ御議論ガゴザリマセヌナラバ……

○栗谷品三君(六番) 私ハ三讀會ヲ起立ニ採リタイ、本員杯ハ反對デアリマ

スカラ

○議長(星亨君) 宜シイ、議長ガ勝手ニ遣リマスカラ、ソレナラハ即チ三讀會ニ……即チ原案ノ通り賛成デゴザリマスルナラバ起立ヲナスツテ下サイ

起立者 多數

○議長(星亨君) 多數ト認メマス(拍手起ル) 依ッテ原案通りニ可決致シマシタ

第四 出版條例改正案 (加賀美嘉兵衛君他二名提出) 第一讀會

○議長(星亨君) 是ヨリ本日ノ議事日程ノ第四ニ移リマス、出版條例改正案……朗讀ヲ止メマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サレトモ參照ノタメニ掲載ス)

出版法

第一條 凡ソ機械含密其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編輯シ若クハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ時々ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文圖書ノ出版ハ總テ此法律ニ依ルヘシ但專ラ學術技術統計廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行以前ニ管轄廳(東京府ヲ經テ製本二部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其官廳ヨリ發行前製本二部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條 出版者ハ著作者又ハ其相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ届出ルコトヲ得

著作者又ハ其相續者ヲ知ル可ラサルトキハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

翻刻又ハ外國人ノ著作ニ係ル文書圖書及他人ノ作爲ニ係ル書畫ノ出版届ハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其學校會社協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ届出ヘシ

第六條 文書圖書ノ發行ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但著作又ハ其相續者ハ此限ニアラス

第七條 文書圖書ノ發行者ハ其氏名住所及發行ノ年月日ヲ其出版物ノ末尾ニ記載スヘシ

第八條 文書圖書ノ印刷者ハ其氏名住所及印刷ノ年月日ヲ其印刷物ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若シ數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス

前二項ノ印刷所ニシテ若シ營業上慣行ノ名稱アルトキハ其名稱ヲモ記載スヘシ

第九條 書簡通信報告社則塾則引札諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類ハ第三

條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、者ハ此法律ニ依テ處分ス

第十條 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度第三條ノ手續ヲナスヘシ但雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省略スルコトヲ得

出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト見做スヘシ

第十一條 一タヒ出版届ヲナシタル文書圖書ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖モ若シ改正増減シ又ハ註解附録繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍ホ第三條ニ依ルヘシ

第十二條 演說若クハ講義ノ筆記ハ演說者若クハ講義者ヲ以テ著作トス但筆記者ニ於テ演說者若クハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作ト看做スヘシ此場合ニ於テ記載ノ事項第十五條第十六條第十八條第十九條第二十條第二十五條第二十六條ニ觸ル、トキハ演說者若クハ講義者筆記者ト同ク其罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說講義ヲ新聞紙若クハ雜誌ノ通信社ニ於テ筆記シ其新聞若クハ雜誌ニ記載シタルモノ及ヒ總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經シテ其筆記ヲ出版シタル者ニ關シテハ演說者若クハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

公開ノ席ニ於テ爲シタル講義若クハ演說ノ外ハ其講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但本項ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ其責ニ任セシム

第十三條 他人ノ著作ニ種以上若クハ他人ノ演說講義ノ筆記二種以上ヲ編纂シテ一部ノ書トナストキハ編纂者ヲ著作ト看做スヘシ

第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作ト看做スヘシ

第十五條 學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其出版届ヲナス者ヲ以テ著作ト看做スヘシ

第十六條 罪犯ヲ曲屈スルノ論說ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條 外交軍事ニ關シ公ニセサル官ノ文書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其文書圖書ノ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フルコトヲ得

俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其文書圖書ノ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖書ハ當該官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十二條 第三條ノ届出ヲナサシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第六條ヲ犯ス者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 發行者自己ノ氏名住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其發行スル文書圖書ニ記載セス其之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ貳圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 印刷者自己ノ氏名住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セス若クハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ罰前條ニ同シ

住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ社名アルトキ印刷所及社名ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ

第二十六條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セントスル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者ヲ一年以上以下ノ輕禁錮又ハ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者ヲ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ル、文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者ヲ十一日以上以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ但其未タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

第三十條 第二十六條第二十七條第二十八條第一項ノ場合ニ於テ發行者印刷者ニ於テ情ヲ知ラサルコトヲ證明シ得サルモノハ共犯ヲ以テ論ス

第三十一條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢察官ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得差押フル所ノ刻版及印本ハ沒收ノ確定ヲ待チ無罪ナレハ本主ニ還付シ有罪ナレハ沒收ス

第三十二條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十三條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀侮辱ノ訴ヲ受タル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外被告ハ事實ノ證明ヲナスコトヲ得若シ之ヲ證明シタルトキハ其罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受タルトキモ亦同シ

第三十四條 此法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首輕減再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十五條 此法律ニ關スル公訴ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十六條 文書圖書又ハ物像ヲ寫眞トナシ因テ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、モノハ此法律ニ依テ處分ス

第三十七條 此法律ニ依リ出版スルコトヲ許可セラレタル雜誌ニシテ其許

可セラレタル範圍外ノ事項ヲ記載シ因テ此法律又ハ新聞紙法中ノ條項ニ觸ル、者ハ此法律又ハ新聞紙法ニ依リ重ニ從テ處分ス

第三十七條 此法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ内務大臣ハ此法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニアラサレハ更ニ此法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十八條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖モ其目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此法律ニ依ル

○廣瀨貞文君(二百三十五番) 此出版條例ハ新聞紙條例集會及政社法ノ委員ニ付託スルコトヲ希望シマス

(贊成々々ノ聲起ル)

○山口千代作君(四十九番) 唯今ノ發議ハドウ云フコトデアリマスカ

○議長(星亨君) 第四ノ出版條例ヲ尙ホ集會新聞、其他ノ條例ト同シク委員會ニ付スト云フコトデアリマスカ

○廣瀨貞文君(二百三十五番) 前ノ委員ニ付託シタイト云フノデアリマス

○山口千代作君(四十九番) 前ノ委員ニ付託スルト云フノデスカ、ソレナラバ贊成ヲ致シマス

○議長(星亨君) 御議論ガナケレバ、其發言通ニ極メテ宜シウゴザリマスカ

(異議ナシト呼ブ者多シ)

○議長(星亨君) ソレナラバ、前ノ委員ニ付託スルト云フコトニナリマシタ、左様——サウスルト是ヨリ委員ヲ指名スルノデゴザリマスガ、今日ハ速モ出來マセカラシテ……

○河野廣中君(二百一十一番) 少々私ハ申上ゲテ置キタイコトガアリマス

(河野廣中君演壇ニ登ル)

○河野廣中君(二百一十一番) 私ハ一昨日内務大臣井上馨君即チ臨時總理大臣代理ガ施政ノ方針ヲ朗讀セラレテアリマシタ、之ニ對シテ我々ハ此協贊ノ任ヲ全ウスルニ就イテノ意思ヲ述ベテ置キマシテ、サウシテ内閣諸公ノ注意ヲ請ヒマシタナラバ餘程宜シイコト、考ヘル、即チ必要デアルト考ヘルノデアリマス、其際直ニ意見ヲ述ベマシタイ所存デ居リマシタガ、何ヲ申スニモ朗讀ノコトデゴザイマシテ、判然致シマセヌ故ニ、退イテ、議事速記録ニ因リマシテ其要旨ヲヤウノ得マシタ次第デアリマス、依ッテ此内閣諸公ニ對シテ注意ヲ仰ギ又兼テ我々ノ協贊ノ任ヲ全ウスル意思ヲ述ベタイ次第デアリマス、依ッテ内閣大臣ノ出席ヲ求ムル次第デアリマス、是ハ議院法ニハ在リマセヌ即チ法律ニ明文ハゴザリマセヌケレドモ、立憲政體ノ德義トシテ内閣ハ容レラレルモノデアルト思ヒマス、故ニ内閣諸公ノ出席ヲ請求致ス次第デアリマス、冀クハ議長閣下速ニ之ヲ御遞送相成リマスル様致シタウゴザリマス、此儀ヲ……

内閣大臣ニ出院ヲ望ムノ件

本月一日衆議院ニ於テ井上内務大臣ハ伊藤總理大臣ニ代テ現内閣施政ノ方針ヲ朗讀セラレタリ其趣旨ハ豫メ議會ニ對スルノ方針ヲ示シテ議事ノ圓滑ヲ謀ルニ外ナラサルヘシ然ラハ則チ本員等モ之ニ對スルノ意見ヲ述ヘ内閣大臣ノ注意ヲ促カシ置クハ實ニ必要ナリト信ス當日之ヲ述ルヲ得サリ

シハ一回ノ朗讀ニ止リタルヲ以テ明瞭ニ其趣意ヲ聽キ取ル能ハサレハナリ其後本員等ハ議事速記録ニ據テ初メテ其趣意ヲ了知スルヲ得タレハ之ニ對シ本員等亦意見ヲ述ヘント欲ス因テ内閣大臣ノ出陣ヲ求ム議院法ニ其明文ナシト雖モ立憲政治ノ德義上之ヲ承諾セラレンコトヲ希望ス

(贊成々々ノ聲起ル)

○議長(星亨君) 唯今ノ事ハ別ニ御議論ガナケレバ其通り取計ラヒマス

○議長(星亨君) 是ヨリ明後日ノ議事日程ヲ報告致シマス

衆議院議事日程 第四號

明治二十五年十二月五日

午後一時開議

第一 田畑地價特別修正法律案(政府提出) 第一讀會

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第三 酒造稅則中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第五 酒造稅則附則中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第七 明治二十二年法律第二十四號中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第九 烟草稅則中改正追加法律案(政府提出) 第一讀會

第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第十一 所得稅法中改正追加法律案(政府提出) 第一讀會

第十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第十三 中央備荒儲蓄金元資繰入法律案(政府提出) 第一讀會

第十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第十五 郡制改正法律案(工藤行幹君外二名提出) 第一讀會

第十六 登記法改正法律案(野出鎬三郎君外二名提出) 第一讀會

第十七 明治二十三年法律第八十四號改正案(野出鎬三郎君外二名提出) 第一讀會

第十八 度量衡法追加案(今井磯一郎君提出) 第一讀會

第十九 北海道開拓計畫費豫算ニ關スル建議案(牧朴眞君提出) 第一讀會

○議長(星亨君) 今日ハ是デ散會シマス

午後三時三十分散會

衆議院速記録第二號正誤

頁	段	行	誤	正	頁	段	行	誤	正
一三	上	五	第三章	第三條	一五	上	一七	「大岡實造君」	「下」
								山名政君ヲ加フ	丸